平成 30（2018）年度

全学教育機構年報

令和２年２月

全学教育機構 点検評価委員会

まえがき

平成 30 年 11 月に中央教育審議会から、2040 年に必要とされる人材と高等教育が目指すべき姿として「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」の答申が出された。2040 年頃の社会変化の方向の一端として、①SDGs が目指す社会、②Society5.0、第 4 次産業革命が目指す社会、③人生 100 年時代を迎える社会、④グローバル化が進んだ社会、⑤地方創生が目指す社会を示している。さらに、前述の 2040 年頃の社会変化の方向を踏まえた大学の役割が示されている。

本学では、2014 年末に「茨城大学改革の基本方針」を策定して、「学生が成長する学生中心の大学」を目標に教育改革を推進している。教育目標として「変化の激しい 21 世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成すること」を示した。そして、そのために茨城大学の学生が卒業する時に身に付けているべき能力を、5 つの知識及び能力で構成されるディプロマ・ポリシー（DP）[*1]として定めた。

全学教育機構は、本学の DP に即した人材を育成するため、全学的な観点から、教育・学生支援活動に関する企画、調整、運営、実施、評価等を総括的に行うことを目的に、1 年間の設置準備期間を経て、平成 29 年 4 月 1 日に本格稼働した。これまでの教養教育は大学教育センターが企画、運営、実施、点検評価を行っていたが、大教センターでは学生支援活動等と連携していなかった。一方、全学教育機構では、継続的な改善を伴う教育の質保証の全学的な統括、共通教育や学生支援の企画・運営、グローバル教育の推進などを担うため、4 部門 4 センターを設置している。部門には専任教員を配置し、センターには事務職員を配置し、学生の窓口業務を担当している。

本年報は、平成 30 年度における総合教育企画部門、共通教育部門、学生支援部門、国際教育部門の 4 部門の活動、全学教育機構内の委員会活動と全学教育機構に所属する専任教員の活動状況を取りまとめたものである。総合教育企画部門では、関係部署との連携による、共通教育と専門教育間の連携・調整、教育活動の点検・評価及び改善等並びに IR と結びついた総合的なエンロールメント・マネジメントに関する基本方針の策定、企画及び運営を行っている。特に、平成 28 年度から大学教育再生加速プログラム(AP)の支援を受け、卒業時の質保証のモデルづくりを進め、平成 30 年３月に公表された AP の中間評価 [*2]で最高の S 評価を得た。共通教育部門では、DP に基づく共通教育(基盤教育、プログラム教育及び大学院共通教育)の基本方針の策定、企画及び運営を行っている。共通部門にはプラクティカル・イングリシュ部会を含む 12 部会と、共通教育全般に関する窓口の共通教育センターとがある。さらに、平成 30 年度に新たな部会として、AI・データサイエンス部会を立ち上げ、現在 13 部会となっている。本年報では 13 の部会活動を紹介している。学生支援部門では、学修、生活、心身の健康、就職等のトータルなサポートによる学生の成長を促す学生支援を行っている。学生支援部門には、学生支援の窓口として学生支援センターとキャリアセンターの 2 センターと茨大なんでも相談室とバリアフリー推進室の 2 室がある。特に、バリアフリー推進室が全学教育機構下に入り本格始動してから、３キャンパスでの相談体制が充実し、相談件数が格段に伸びた。また、アクセシビリティリーダーの養成にも積極的に取り組み、本学からアクセシビリティリーダー認定試験２級合格者９名を輩出した。キャリアセンターでは、就職ガイダンス（参加者合計：2,344 名）、合同企業説明会、国家・地方行政団体業務説明会、インターンシップマッチングフェア等の就職支援活動と令和元年度から本格ス

タートする iOP（Internship Off-campus Program）周知のための「iOP ラボ」の企画運営を行った。国際教育部門では、留学生教育及び日本語教育を実施し、国際社会に適応し活躍する人材を育成するためのグローバル教育を推進している。国際教育部門には、グローバル教育を推進する窓口としてグローバル教育センターがある。新規国際交流協定校としてコメニウス大学（スロバキア）との部局間交流協定の新たな締結、6 カ国（スペイン、ブルネイ、韓国、マレーシア、米国（サンフランシスコ）、オーストラリア）の短期海外研修の企画および実施、さらに 3 大学（ブルネイ・ダルサラーム大学、カナダ・サイモンフレーザー大学、ウィスコンシン州立大学スペリオル校）の協定校との教育交流を実施した。本年報では平成 30 年度の部門活動の特色ある業務を取り上げている。これと本機構の委員会活動、教員の活動の経過と記録が要約されている。

このように本機構が発足以来、順調な歩みを続けることができたのは、三村学長、太田副学長（教育統括）、木村初代全学教育機構長をはじめ、これまでに本機構に関与された多くの方々の献身的なご尽力やご協力によるところが大である。関係各位に厚く御礼申しあげる。最後に、創刊号に続く本年報がこれからも、全学的な観点からの教育・学生支援に関心をお持ちの多くの方々によって広く利用されることを切に願うものである。

令和元年 11 月 27 日

全学教育機構長　栗原　和美

*1 https://www.ibaraki.ac.jp/education/policy/

*2 https://www.jsps.go.jp/j-ap/index.html

＜もくじ＞

まえがき ･･ 2

① 部門の活動［定例業務］ ･･ 5

② 部門の活動［平成 30 年度の活動・特色ある業務］ ･･････････････････････････････････ 11

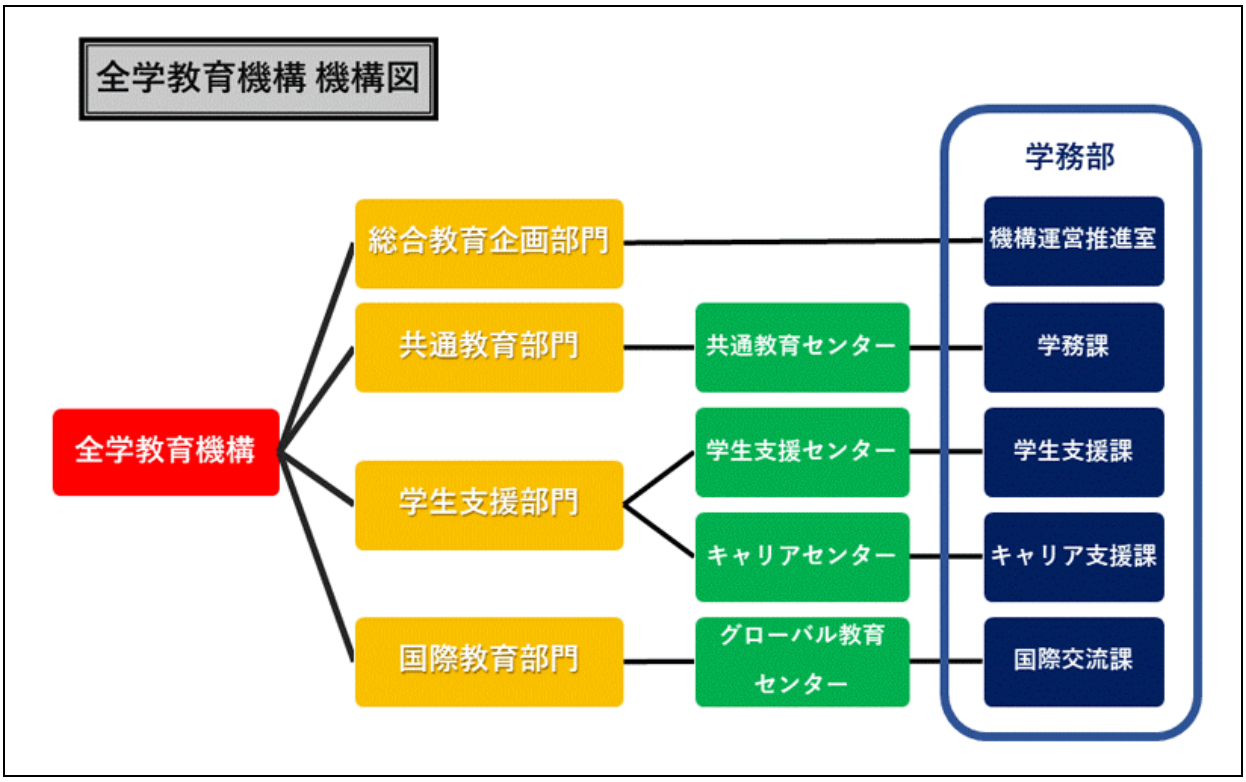
③ 平成 30 年度における教員の活動 ･･ 51

④機構内各種委員会委員 ･･ 105

⑤ 別紙資料リスト ･･ 106

① 部門の活動［定例業務］

全学教育機構では、本学のディプロマ・ポリシーに則した人材を育成するため、全学的な観点から、教育・学生支援活動に関する企画、調整、運営、実施、評価等を総括的に行います。継続的な改善を伴う教育の質保証の全学的な統括、共通教育や学生支援の企画・運営、グローバル教育の推進などを担うため、４部門４センターを置いています。



略年表

大正 9 年（1920 年）4 月：旧制水戸高等学校開学。

昭和 24 年（1949 年）5 月：茨城大学開学。文理学部を設置。

昭和 37 年（1962 年）4 月：学生相談室（学生相談センターの前身）が発足。

昭和 42 年（1967 年）6 月：文理学部を改組し、人文学部、理学部の２学部及び教養部（共通教育部門の前身のセンターの元となる）が発足。

平成 8 年（1996 年）4 月：大学教育研究開発センター設置。（同年３月をもって教養部を廃止）

平成 13 年（2001 年）4 月：国際教育部門の前身となる留学生センターおよび学生支援部門の前身となる学生相談センター設置。

平成 14 年（2002 年）4 月：学生支援部門の前身となる学生就職支援センター設置。

平成 17 年（2005 年）3 月：評価室（現在の大学戦略・IR 室）を設置。

平成 18 年（2006 年）4 月：大学教育研究開発センターを大学教育センターに改組。

平成 29 年（2017 年）4 月：大学教育センター、留学生センター、学生相談センター、学生就職支援センターに、大学戦略・IR 室の一部機能も移行した上で全学教育機構に再編成。

○ 総合教育企画部門

関係部署との連携による、共通教育と専門教育間の連携・調整、教育活動の点検・評価及び改善等並びに IR と結びついた総合的なエンロールメント・マネジメントに関する基本方針の策定、企画及び運営を行なっている。

第１四半期（４月～６月） ・新入生調査 ・学生生活実態調査 ・授業アンケートとりまとめ（前年後期分）	第２四半期（７月～９月）
第３四半期（10 月～12 月） ・授業アンケートとりまとめ（前期分）	第４四半期（１月～３月） ・卒後３年目調査 ・企業向け学修成果調査（隔年） ・卒業時・終了時調査
通年（随時）実施事項 ・学部アドバイザリーボードへの情報提供 ・学部、学科の FD ミーティングへの情報提供 ・FD/SD の企画、運営	

○ 共通教育部門

ディプロマ・ポリシーに基づく共通教育(基盤教育、プログラム教育及び大学院共通教育)の基本方針の策定、企画及び運営を行っている。

第１四半期（４月～６月） ４月：基盤教育科目クラス編成 ４月：前学期セメスター及び第１クォーター授業開始 ４月：前年度後学期セメスター学生授業アンケートに対する教員自己点検の実施 ６月：第１クォーター学生授業アンケート実施 ６月：第１クォーター成績入力 ６月：第２クォーター授業開始 ６月：前年度後学期セメスター学生授業アンケートおよび教員自己点検の集計結果を踏まえた分野別 FD の実施 ※Ｈ３０年度に限り、システム変更の都合により１２月に実施	第２四半期（７月～９月） ７月：前学期セメスター及び第２クォーター学生授業アンケート実施 ８月：前学期セメスター及び第２クォーター成績入力 ８月・９月：夏季集中講義 ９月：夏季集中講義成績入力
第３四半期（９月～12 月） ９月：後学期セメスター及び第３クォーター授業開始 １０月：前学期セメスター及び第１・第２クォーター学生授業アンケートに対する教員自己点検の実施 １１月：第３クォーター学生授業アンケート実施 １２月：第３クォーター成績入力	第４四半期（１月～３月） １月：後学期セメスター及び第４クォーター学生授業アンケート実施 ２月：後学期セメスター及び第４クォーター成績入

１２月：第４クォーター授業開始 １２月：前学期セメスター及び第１・第２クォーター学生授業アンケート並びに教員自己点検の集計結果を踏まえた分野別 FD の実施 １２月：次年度基盤教育科目シラバス入力 １月：シラバスの点検・確認	力 ３月：春季集中講義 ３月：春季集中講義成績入力

［ 共通教育センター］

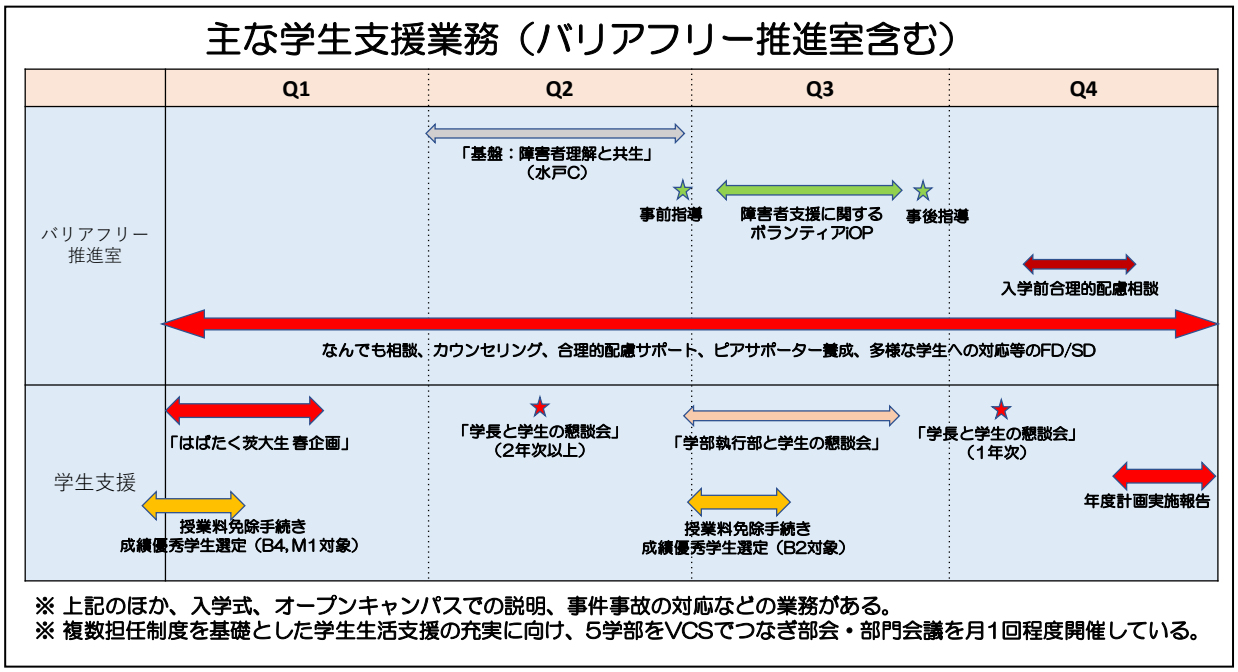
１年次からの基盤教育及び全学共通プログラムの履修手続きなど、共通教育全般に関する窓口である（旧 大学教育センターなど）。

○ 学生支援部門

学修、生活、心身の健康、就職等のトータルなサポートによる学生の成長を促す学生支援を行っている。２つのセンターと２つの室を持っている。

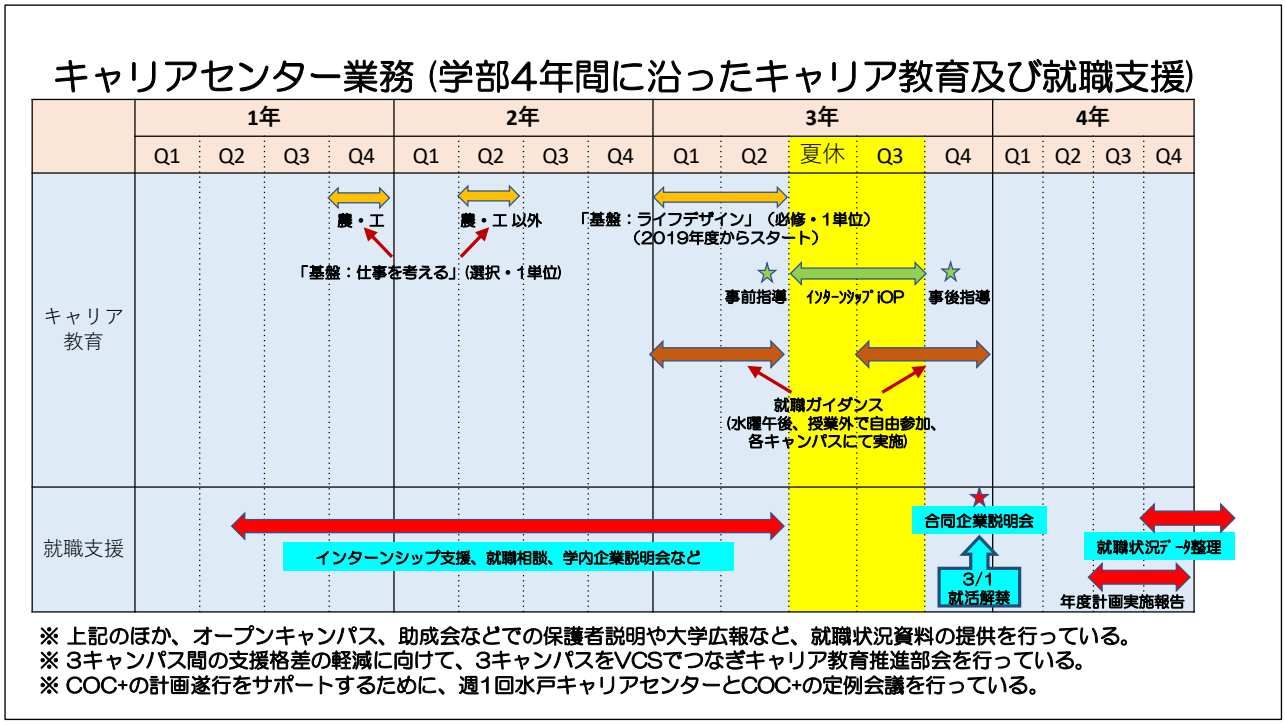
［ 学生支援センター ］

学生生活全般について取り扱い、学生の成長を促す学生支援を行う。奨学金や授業料免除の申請、学生寮、サークル活動などの窓口である。茨大なんでも相談室およびバリアフリー推進室があり、それぞれ学生相談および障害のある学生向けの支援を行っている。



［ キャリアセンター ］

就職支援や、インターンシップをはじめとする将来を見据えた幅広いキャリア支援を行う。就職相談や求人情報、インターンシップの受付などの窓口となっている。



○ 国際教育部門

留学生教育及び日本語教育を実施し、国際社会に適応し活躍する人材を育成するためのグローバル教育を推進している。

［ グローバル教育センター ］

海外留学や研修、英語コミュニケーション力の強化など、グローバル教育を推進。留学や国際交流の相談のほか、外国人留学生の日本語教育や修学支援、国際交流会館などの窓口となっている。

月	活動記録
４月	交換留学生オリエンテーション（３日間） 交換留学継続生のためのガイダンス 外国人留学生新入生ガイダンス チューターガイダンス 日本語研修コース受講生学外研修旅行
５月	海外留学説明会 海外ボランティア・TOEFL 説明会
６月	日本語研修コース受講生のホームステイ 水戸市の姉妹都市アナハイム市の学生親善大使との交流 留学生の茶道・華道体験

	公開講座　日本語研修コースレベル４総合 海外留学サロン
7 月	国際交流合宿研修 派遣留学生のための留学前ガイダンス 交換留学生向け帰国前ガイダンス（前学期） オープンキャンパス「国際交流留学案内」 公開講座　日本語研修コースレベル４総合
8 月	「5 学部混合地域 PBL IV」最終報告会
9 月	日本語研修コースのオリエンテーション 阿見キャンパス新入留学生向けの集中日本語初級コースの開講 異文化理解入門ワークショップ・新入留学生歓迎交流会（阿見町国際交流協会との共同事業）
10 月	阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業） 協定校派遣留学説明会 留学生、チューター、教職員のための国際交流パーティー 阿見キャンパスホームステイ・ホストファミリー向けの説明会（阿見町国際交流協会との連携事業） 日本体験学習：農学実習 ブルネイ・ダルサラーム大学の学生との授業交流
11 月	留学生同窓会（理事会） 海外ボランティア・TOEFL 説明会 阿見キャンパス公開講座（インドネシアの文化紹介）・留学生ホームステイ（阿見町国際交流協会との共同授業） 留学生のための防災訓練 日本体験学習：茶道・華道体験 ウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流
12 月	第 14 回茨城学生国際会議 阿見キャンパス English Café　（阿見町国際交流協会との共同事業） 阿見キャンパス公開講座（ブルネイの文化紹介）（阿見町国際交流協会との共同事業）
1 月	阿見キャンパス公開講座（タイの文化紹介）（阿見町国際交流協会との共同事業） 阿見キャンパス留学生ホームステイ報告会・地域住民との交流会（阿見町国際交流協会との連携事業） 桜ノ牧高校訪問・文化紹介・文化交流 公開講座「日本人とはだれか？多様化する日本社会についてみんなで考えよう」 Studies in Contemporary Japan ポスター発表会 海外派遣留学生のための危機管理ガイダンス 交換留学生向け帰国前ガイダンス（後学期）

２月	阿見・日立キャンパス向け海外留学危機管理セミナー
３月	サポート隊ガイダンス 留学生同窓会　役員懇談会

② 部門の活動［平成 30 年度の活動・特色ある業務］

全学教育機構では、それぞれの部門において、大学の中期目標・計画などに従い、特色ある活動を行っています。平成３０年度の特色ある活動は以下のようになります。

○ 総合教育企画部門

本学では、大学教育再生加速プログラムの支援を受け、卒業時の質保証のモデルづくりを進めている。そのために、教育改革推進委員会、学務部と連携し、平成 30 年度は、以下のような業務を行った。

平成 30 年度については、これまでアドホック（臨時的・暫定的）に実施していた卒業時の質保証（内部質保証システムの構築、運用などの教育改善活動）を定例化・定型化することで、学内で日常の業務の中に「教育の質」を継続的に向上させる仕組みを整えることに注力した。特に、平成 29 年度の「データ収集」の体系化から一歩進め、各学部教員や各教育プログラムで自律的な改善活動を行うための「可視化された情報の提供」を円滑に行えるような仕組みの整備を進めた。卒業時の質保証のためにエンロールメント・マネジメントの体制構築を進めているが、そのため iEMDB（茨城大学 Enrollment Management Database）というデータベースの整備、FD/SD システムという情報提供ツールの開発を進め、学内の教育改善情報の流通強化を図った。このことにより、必要なときに、必要な教育改善のための情報を、それを必要とする教職員に提供できる仕組みが整備された。

また、アドバイザリーボードなど学外の方の意見や知見を教育改善や卒業時の質保証に活かす仕組みについては、ほぼ定着した。今年度は複数の学部で卒業研究ルーブリックの吟味なども依頼しており、卒業時の学修成果を測定する「ものさし」を地域の方々に確認、保証いただく仕組みが整いつつある。

これらの活動の結果、さまざまな場面（各年度、卒業時、卒業後など）での学生の諸活動の結果（学修成果を含む）が教職員に（ほぼリアルタイムに）数量的に把握できるようになった。これは、学生にとっても入学目的の実現のために、何がどこまでできたのか、という現状把握が可能になった、という意味でもある。これらを学内外で共有することで、地域や保護者の方も一体となった卒業時の質保証を行う体制が整備されつつある。

実施計画	結果と成果（全学の動き）
4 月　「コミットメントセレモニー」や「はばたく茨大生」など、本学学生へキャリア教育を支援する企画を開催する。	入学式の際に、自校教育、初年次教育も兼ねてディプロマ・ポリシーを説明し、４年間の学びのデザインを考えさせる企画「コミットメントセレモニー」を行った。また、ディプロマ・ポリシーごとに特筆すべき活動を行っている在学生に、その取り組みを報告してもらうイベント「はばたく茨大生」を実施し、58 名の学生がポスター発表を行った。 ↓

	AP 事業により体系化された学生調査により、入学動機がやや曖昧な学生が一定程度在学していることが分かった。そのため、入学式の際に行う「コミットメントセレモニー」においてディプロマ・ポリシーや教育プログラムの解説を行うことで、新入生らに 4 年間の学びのデザインを構想させることができた。また、多くの保護者も同席することで、大学－学生－保護者との間でディプロマ・ポリシーと教育プログラムのねらいや特色を共有することができた。このような学修動機の再確認を全入学生が実施することで、卒業時の質保証のためのゴール設定と、そのプロセスの理解を図ることができた。
4 月　各教育プログラムにおけるカリキュラム・マッピングやカリキュラムツリー等の作成状況を確認、検証するため、FD ミーティングを実施する（7 月までの間に各学部で実施）。	平成 29 年度末に前倒しで各教育プログラムにおけるカリキュラム・マッピングやカリキュラムツリー等の作成状況を全学部で確認した。これを受け、4 月に全学の教育改革推進委員会において、FD を兼ねて各学部の取り組み状況を報告してもらい、全学的にカリキュラムを分かりやすく学生に提示しているかどうかの点検状況の確認および課題整理を行った。 ↓ カリキュラム・ポリシーに照らして教育プログラムが展開されているかどうか、学生に分かりやすく示されているかどうかを点検することで、カリキュラムの点検を教員集団が自ら意識するほか、授業改善を促進することができた。また、カリキュラムの可視化により、学生がより自らの学びをデザインできるようにしたことで、学修成果の向上が、より明確に期待できるようになった。
4 月　学修成果についての卒業生等からの意見聴取（直接評価）結果について各学部に配信する。	ディプロマ・ポリシーの達成度について、卒業生（時）に聴取を行い、その結果の分析を行った。これらの結果を学内に公表し FD 等で活用してもらうだけでなく、各学部の教育改善を担当する教務委員長等で構成される教育改革推進委員会において報告を行い、全学的な議論および把握を行った。 ↓ 教育の内部質保証活動の中で学修成果の把握はもっとも重要な情報収集のひとつである。特に卒業時におけるディプロマ・ポリシーの達成状況の確認は、卒業時の質保証という観点からも重要である。卒業時の DP 達成度を全学的に測定し、共有することで、学年ごとの学修成果を把握することが可能になった。これによって、在学生の学修指導への基礎資料を各教員に提供することができ、より効果的な学修指導が行えるようになった。
4 月　卒業研究ルーブリックについて、先行して実施した学部の事	先行導入の工学部（JABEE）、農学部に続き、人文社会科学部、理学部において卒業研究ルーブリックの策定を行った。理学部においては今年度の卒論発表会から試行を開始した。

例を検証し、各学部、学科・コース等（カリキュラム）版の設計を開始する。	↓ ４年間の総合学修ともいえる卒業研究については、ほとんどの学部において教員個人の判断ではなく、教育プログラム全体でその質を保証する体制に移行しており、各教育プログラムで卒業研究（ひいては、４年間の学習）を保証する体制がほぼ完成している。
4 月　学修成果の実態把握のため、各種アンケート（入学時、在学時、卒業時、卒業後及び学外）を行い、集計・分析する。	入口から出口までの学生の活動および成果を体系的に調査する仕組みを構築し、今年度も継続的な調査を実施した。 ↓ 調査結果を集計し、可視化、提供するだけでなく、本取組に係る成果や学生の傾向等、経年変化の分析を行い、各学部 FD で報告することで改善の資料とすることができた。
4 月　各種調査データを基に学修成果に関する数値情報を集約し取りまとめ、人材育成 Annual Report（学修成果ファクトブック）の発行に向けて準備する。	iEMDB の構築と平行して、それを可視化する仕組みの構築を開始した。この学修成果の可視化は、茨城大学 FD/SD 支援システム（仮称）の開発と、グラフの自動描画や簡易 BI ツール機能の実装によるもので、本学独自のシステムである。 ↓ このシステムは、本学の教育の質保証の状況を共有するものである「電子版人材育成 Annual Report（学修成果ファクトブック）」へも応用した。実際に、既に複数の学部・教育プログラムにおいて、利用モニターによる運用試験を行っている。これによって、学生の学修状況調査の結果をほぼリアルタイムに全教職員に配信する仕組みが整い、学修指導・支援の体制が強化された。
4 月　iOP 推進チームを設け、先行実施学部の状況を検証し、iOP；internship off-campus program を構築する。	本学は、テーマⅣ（長期学外学修プログラム）の内容に相当する iOP を実施し、その成果も本学の卒業時の質保証に組み込んでいる。この iOP を実施するクォーター（3 年次第 3 クォーター）では、原則として、必修科目を開講しない。この iOP をマネジメントするチームを設置し、情報共有および iOP のプログラム（海外研修、インターンシップ、サービスラーニング、発展学修）を開発し、学生の希望動向の調査や教職員が iOP を実施するうえでの支援策を構築した。 ↓ ディプロマ・ポリシーに掲げた、例えば、コミュニケーション能力などは、課外活動などでより効果的に身につけているという調査結果もあり、この学外学修プログラムの導入により、学内（正課）ではカバーしにくい能力を向上させることが可能になった。
4 月　学修相談室の改善と充実、教育効果の可視化による教育改善、自律的な学習者を	学修相談室については、全学的な実施状況の調査と整理を行い、より効果的な相談体制への改善を図った。また、今年度は特に初年時学生向けの学修相談について web サイトに整理、公表した。 ↓

目指した授業外学習環境の充実を進める。	授業外学修の支援として必要な情報が学生に行き渡るようにした。周知状況については、次年度の学生生活実態調査などで把握予定である。
5 月　調査結果の蓄積システム（簡易型 BI ツール）の設計と運用を行い、社会のニーズを各教育プログラム（学内）にフィードバックするための情報提供を開始する。	各種学生調査結果の蓄積、閲覧を行う茨城大学 FD/SD システムについては、10 月から授業アンケート部分について試行運用を開始し、２月から正式サービスを開始した。他の学生調査結果についても本システムから提供するようにして、情報提供の一元化を進めた。また、就職先からの本学卒業生の DP 達成度の調査も実施した。 ↓ 各教育プログラムを担当する教員がカリキュラム・ポリシーに沿った授業が展開できているかどうかを即時に確認できるようになった。また社会のニーズ（就職先から DP 達成度評価）により各教育プログラムの改善が進むと考えられる。
5 月　担任など学生支援を行う教職員にこれまでの調査データを可視化の上、提供を開始する。	茨城大学 FD/SD システムを開発し、10 月以降に実施した学生調査結果については、試行的に全教職員に可視化したデータの提供を開始した。 ↓ 入口から出口までの学生の成績や各種アンケート結果が連結され始めたことで、例えば、成績不振学生の学修履歴、アルバイト状況、悩みなどが容易に検索できるようになった。このことで、各学部、各教育プログラムにおいて卒業時の成果（例えば、就職先）とそれまでの学修履歴（例えば、学期ごとの GPA の推移）などを関係づけた情報に基づいて学修指導を行うシステムが確立した。
6 月　キャリア教育により学修動機・意欲を向上させる方策を実施するため、学生調査の充実、結果の共有を関係部署と開始する。	キャリア教育を行う部署とは、学生調査の項目の調整などで協力を進めており、今年度についても協働で調査を実施した。 ↓ キャリア教育は、全学共通教育と連関しているが、学部専門教育とも密接に結びつくよう、現状と課題を関係者で共有することができるようになった。
6 月　来訪する卒業生からの意見聴取を行うフォーマットや情報の流れる仕組みを検討し、調整する。	卒業生からの意見聴取については、来訪する卒業生に全学統一フォーマットで聴取することを検討していたが、卒業３年後調査を定例化することで一本化することとした。 ↓ 大学に来訪する卒業生のみに意見を聴取するよりも、毎年全卒業生に聴取する方が、その際に大学の取り組み等の情報提供なども合わせて実施できるようになった。

8月　各学部においてアドバイザリーボード等を実施する。	各学部は学外有識者から構成されるアドバイザリーボードを設置しており、それぞれ２回もしくは１回の会合を開き、内部質保証システムの点検や卒業研究ルーブリックなどの学修成果把握ツールの確認を行っている。 ↓ 改組の状況や今後の計画についても助言を得ることで、教育改善の動きをさらに加速させた。
9月　新教務情報システムを用いて学修成果を可視化し学生に提供する。	４月に新教務情報システムの運用を開始し、学生自身の通算 GPA、学期 GPA、学科内での成績ランクの情報を提供している。また、各種アンケート機能を用いて聴取した意見を集約して可視化した情報も学生に提供している。 ↓ この可視化システムによって、学生自身が自分の学修成果の状況を確認して、自らが学修を改善・向上させることができ、場合によっては、教員との具体的な学修相談が可能となった。
9月　成績評価手法について分析を行い、各科目の成績評価の改善についてルーブリック化等のツールの導入を含め検討を行う。	卒業研究ルーブリックを進めているが、一般科目についても全学生必修の大学入門ゼミで導入している。一般科目分については、シラバスに簡易ルーブリック（成績区分ごとの成績評価基準の明確化）を掲載することについて検討を進めている。 ↓ ルーブリックによる成績評価を卒業研究に導入したことにより、ディプロマ・ポリシーに基づいて、学生に対して客観性と公平性をもった評価を行うことができるようになった。
10月　一般科目の学修成果を「can DO」の形で明確に提示できるよう試行するなど、シラバス改訂の準備を進める。	シラバスの有効性や課題について全教職員、学生を対象に調査を行い、課題整理を行った。 ↓ 今後、学修成果を「can DO」の形で明確に提示できるよう検討を進めることで、学生により学びのデザインを構築しやすいシラバスとなることが期待できる。
11月　学修成果について卒業生やその就職先から意見聴取（直接評価）を行う調査を設計・実施する。	ディプロマ・ポリシーの要素・能力に関して、卒業後３年後の学生および就職先企業に対してアンケート調査を実施した。 ↓ その調査・分析結果では、課題解決力とコミュニケーション力の面で、就職先の評価と比較して学生自身の評価が低いことがわかり、その能力の育成を強化する教育方法の検討が始まった。また、この結果は、学生とも共有して、教職員と学生との協働で、学修意欲や動機の向上を図ることが期待された。

11 月　学修成果に関する数値情報を集約・分析し、人材育成 Annual Report（学修成果ファクトブック）を発行する。これを企業へ提供し、大学の学修成果に係る質保証の取り組みについてＰＲを行うとともに、あわせて意見を聴取する。	iEMDB という入口から出口までを１つのキーコードで追跡できるデータベースを開発することで、人材育成 Annual Report（学修成果ファクトブック）の基礎部分が完成した。 ↓ 社会に対して、本学学生の学びの状況を客観的な数値を用いて説明することが可能となり、本学卒業生の質を担保（広報）する材料となる。
12 月　学修成果の測定法、改善への活用する仕組みについてガイドラインを作成し、内部質保証システムの本格導入を進める。	内部質保証システムの運用に際して、もっとも課題があるのは、データの流通である。そこで、データ配信システムを開発し、iEMDB の整備を進め、ガイドライン策定のための学修成果の測定方法の開発と検証を行っている。 ↓ 内部質保証システムは、それをルーティン化することがその実効性を担保することとなるため、自然な形で実施できるルール化とその実践試行を行っている。
1 月　学修成果について教員からの意見聴取（直接評価）を行う調査を設計・実施する。	全教員、学務系職員、全学生を対象に、科目ナンバリングやクォーター制、自律的学修環境などに対する意見を聴取する教育システム実態調査を実施した。 ↓ 学修成果に関連する教育システムの現状と課題を把握・認識することで、今後の改善の方向性や方策を検討する材料とすることができた。特に、学生側は、クォーター制への移行に対して学修方法を柔軟に適応させていることが分かった。
1 月　卒業研究ルーブリックについて、各学部、学科・コース等（カリキュラム）版の試行版を決定する。	人文社会科学部、理学部、工学部、農学部において卒業研究ルーブリックを策定した。学部によって、その活用（試行含む）の仕方に幅はあるが、順調に進行している。 ↓ 卒業時の質保証に際し、４年間の総合学修である卒業研究は、極めて大きな意味を持つ。この成果を可視化して、教員と学生が共有することによって、開かれた質の担保になったと言える。
2 月　「コミットメントブック」「学修の手引き」「いばだいガイ	内部質保証の諸活動のために学生に配布する資料（「コミットメントブック」「学修の手引き」「いばだいガイドブック」等）について、各学部の動きやこれまでの調査結果を踏まえ、改訂を行った。 ↓

ドブック」等を編集・作成する。	より効果的な質保証のためには、学生、教職員が教育目標やディプロマ・ポリシーを理解し、活用していくことが不可欠である。学修成果の把握の尺度として、ディプロマ・ポリシーの達成度を掲げており、これを学生が十分に理解することによって、自らの教育目標の精緻化にもつながることが期待された。
2 月　近隣大学（東日本国際大学等）と連携し、勉強会（質保証・アセスメントセミナー）を開催する。	3 月 5 日に福島県いわき市にある同じ AP テーマ V 採択校の東日本国際大学と卒業時の質保証に関する公開勉強会を実施した。それぞれの大学で、実際の調査結果や業務システムの紹介を行い、それぞれの How to や課題について情報交換を行い、互いの知見の共有を図った。 ↓ 実践事例の共有により、1 大学では得られないさまざまな卒業時の質保証のための方法論などを得ることができた。
3 月　各学部においてアドバイザリーボード等を実施する。	各学部において学外有識者が委員となるアドバイザリーボードを 1 回ないし 2 回実施し、教育課程の外部評価を行った。特に、卒業研究ルーブリックに重点をおいて、学外有識者が卒業時の質保証を確認する体制が確立した。 ↓ アドバイザリーボードによる教育課程の外部評価は、卒業生の質保証に客観性を付与するものと言える。
3 月　教職員を対象に、FD/SD 研修会を実施する。	3 月 28 日、主に本学教員を対象に、授業改善のためのワークショップ型 FD 研修会「授業の基本」を開催し、若手教員を中心に 32 名の参加者があり、授業を行う上での基本的スキルを学ぶとともに、教材研究に係るグループワークなどを行った。また、学務系職員を対象に SD 研修会を 10 月から 3 月まで全 6 回で実施した。今年度のテーマはエンロールメント・マネジメントであり、エンロールメント・マネジメントの概論および学内での取り組み事例（AP 事業の成果）などに関する講義や考え方を学ぶための演習を行い、参加者はのべ 59 名であった。 ↓ 卒業時の、ひいては教育の質を保証するにはまず授業の本質的な質を確保する必要があり、講師を迎えた客観的な手法による FD を行うことで、その基本から学び、考える機会を得、改善に資することが期待できる。また、教務や学生支援などに携わる職員が、エンロールメント・マネジメントの概念やそれに附帯する本学の取り組みを理解することで、卒業時の質保証のために自分にどのようなことができるのかを考えるきっかけとなった。また、全学的な質保証の動きの中で、

	自分の業務の位置づけ、関連を他の部署のスタッフとの議論し理解することができた。

○ 共通教育部門

(1) 初年次教育部会（情報）

○ 部門の活動（特色ある業務）

・BYOD 対応準備

令和２年４月からの全学 BYOD（Bring Your Own Device：PC 必携化）の準備を進めた。下記のような FD 研修会だけでなく、平成 31 年 2 月 21 日（13：00～15：30）に、教育改革推進委員会、総合教育企画部門、IT 基盤センターと BYOD 全学 FD を実施した。メイン会場を水戸キャンパスの図書館ライブラリーホールとし、日立・阿見の両キャンパスと結んで開催した。羽渕裕真学長特別補佐から、導入計画の概要や留意点を説明いただいた。BYOD 授業事例報告を理工学研究科の鎌田賢教授、栗原和美教授から報告いただき、BYOD の課題と他大学での取り組み例および本学での今後の展開について総合教育企画部門嶌田敏行准教授が報告した。その後、質疑応答が行われ、活発な質疑応答が行われた（資料 2-B-08）。

・FD の実施

平成 30 年 12 月 11 日 10:30～11:30 に情報リテラシー FD を実施した（全体の取りまとめ担当：佐藤）。参加人数は 17 名（2017 年度情報リテラシー担当教員 14 名、その他 3 名）で、前半は BYOD 特集として嶌田先生からの報告をもとに、実施に向けての課題に関する意見交換を行った。後半は、来年度のシラバス変更点についての議論を行い、授業改善に関する意見交換を行った。

(2) プラクティカル・イングリッシュ部会

○ 部門の活動（特色ある業務）

- **異なった特色の FD の実施**

  非常勤教員を含めた全体の FD の年に 2 回、部会員を対象とした FD を年 1 回実施し、教育効果の向上を図っている。全体 FD は年度当初第 1 回として実施し、特に新規採用の常勤講師には、プログラム全体の理解、科目担当者との連絡および意見交換等の機会を提供する上で、大きな役割を果たしている。また、年度末には第 2 回として実施し、次年度に向けて、プログラム全体を再確認することと、年度の授業を振り返っての様々な意見交換を行う機会を科目ごとに提供し、プログラムの理解を深めることとに加え、カリキュラム改善に資することを可能としている。2 度の全体 FD を行う間に部会員対象の FD を行っている。実施の方法としては、非常勤講師を含めた授業担当者へのアンケート結果に基づき、それぞれの科目における課題を明確にし、カリキュラム改善を図り、そこからプログラム全体の質的向上を図ることを意図している。今年度については、TOEIC の得点の分析も踏まえて行い、プログラム全体と TOEIC の得点について、深く考察する機会を得ることができた。

- **英語の会話力を向上させるための機会の提供**

  学生が個別に予約し、英語の聞く力および話す力を特に伸ばすことを可能にする機会を複数の担当者を設定し、提供した。複数の担当が存在することにより、学生は個々の都合に合わせて、予約をすることができ、それによって、より多くの学生に機会を提供することが可能

となっている。(資料 2-B-06)

- **個別に学習相談を行う機会の提供**

  PE 部会のコーディネーターが中心となり、事前に予約の上、英語学習に関して様々な相談を個別に行う機会を提供した。このような機会により、学生の英語学習に関しての様々な悩みの解決を支援し、より効果的な学習方法を体得させ、自律的な学習者の育成につなげていくことが可能となっている。(資料 2-B-04)

○ 関連イベントの報告

- **教育改革推進経費事業による自律学習支援**

  授業外で自律的に英語の多読に取り組む環境を充実させる試みとして、教育改革推進経費による「『自ら読む』自律的な学習者を目指して―多読環境充実による授業外学修支援プロジェクト」を実施した。これにより、読むことにおける自律学習支援の柱となりうる多読のための環境を充実させ、それを地域社会に対しても広く提供し、そこから地域貢献にもつなげることができた。(資料 2-B-07)

(3) 心と体の健康部会

体力測定および生活習慣への意識改革に関する取り組み

(2018.4、2018.10　心と体の健康担当教員　9 名)

「心と体の健康」1 年生の受講学生約 800 名を対象として、体力測定の結果から、自身の生活習慣を振り返る小レポートを課した。体力測定では、文部科学省が提示する「体力運動能力テスト」を基本として、「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「上体起こし」の 4 種目を実施。各自の能力バランスを可視化され、体力年齢も表示されることから、実年齢との差に、学生は自身の生活習慣を振り返り、改める意識を向上させることが出来た。

授業改善に関する FD の実施（2019.8.7　心と体の健康担当教員 6 名）

実技授業後の学生アンケートを踏まえて、授業改善のための FD を行った。学生アンケートの結果はおおむね良好だった。しかし、アンケートから「学習時間の確保が 30 分以上に満たない」という課題としてもち上がった。学習する時間を確保する案として、生活習慣記録表を記録させる案も出たが、そもそも学生自身が、復習や準備の時間を「学習時間」として認識していないのではないか？という意見も出された。授業を受けて興味を抱き、行動を動かすまでの準備段階（インターネット検索、動画観賞等している時間）を学習時間と認識していないのではないかという意見も出された。また、例年挙げられているが、暑い時期の授業の実施について、エアコンの設置等、設備面での改善点が多数挙げられた。さらに、予算をかけずに改善できる可能性としては、酷暑時期の実技と講義の組み合わせ（気温が 30 度を超える場合には、講義に切り替える等）などソフト面の対策が必要であるとの意見が出された。

教科書の作成計画進行中『タイトル未定』(2019.年発刊予定)

(茨城大学 心と体の健康の研究会編)

現在、卒業単位数として「身体活動」が必修 1 単位となり、健康の領域については、「健康の科学」を受講しない限り、健康に関する学ぶ機会が確保されなくなった。その為、「身体活動」の時間に短い時間でも「健康」の領域について学ぶ機会を設けること、また、これまで課題であった、望ましい生活習慣の日常化を図る取り組みとして、教科書の改訂に取り組んでいる。発刊予定は、2019 年度を目標に計画している。学生に伝えたい情報を「学生生活を支える健康」というタイトルで章としてまとめることにより、学生に「健康」の領域で学んでほしい内容明確に示せると考えている。また、「運動スポーツの理論と実践」というタイトルの章には、日常生活に活かせる運動の実施方法等についてまとめることとし、「社会のなかの運動スポーツ」というタイトルの章には、生涯を通じて学び続ける姿勢を育む為の情報を盛り込むことを予定している。

(4) 自然・環境・科学部会(科学の基礎、自然・環境と人間)

○ 部門の活動(特色ある業務)

1) プレスメントテストの作成、実施支援、統一授業のクラス分け

工学部の必修基礎教育科目科学の基礎「微積分学」「力と運動」のクラス分けのためのプレスメントテストとそのガイダンス支援のための説明書の作成と、その採点、及び採点結果をもとにしたクラス分けを行った(「微積分学」担当:小西、「力と運動」担当:山崎)。

2) 統一授業 基礎教育科目 科学の基礎「微積分学」「力と運動」について

統一授業 基礎教育科目 科学の基礎「微積分学」「力と運動」について以下のような活動を行った(「微積分学」担当:小西、「力と運動」担当:山崎)

1. クラスの打ち合わせ会の運営
2. e ラーニング教材の作成と改訂
3. 教科書の作成と改訂(編集委員会の立ち上げ、諸設定の検討を含む)
4. 期末試験問題の作成支援
5. 期末試験問題の全体および問題別の統計と全体成績の統計
6. 授業ノートとスライドの作成と改訂(力と運動のみ. 2019 年度開講授業用だが、作成は 2018 年度中)
7. 過去の期末問題の整理と統計

3) 科学の基礎質問室

入試の多様化や高校の学習指導要領の変更により、高校レベルの学習習得度格差が拡大し、高大接続ための学習支援が必要な学生は年々増大している。茨城大学では全学学生対象として教養の数学・物理学の習得度を底上げし、大学の教養レベルの該当科目にも対応できるようにすることを目的とし、修士、博士課程の学生を含む学部 3 年生以上の学生相談員(ピアサポーター)と教員相談員(小西、山崎)を配置して科学の基礎質問室を開室した。

(5) 多文化理解部会（異文化コミュニケーション、ヒューマニティーズ、パフォーマンス＆アート）

■異文化コミュニケーション（初修外国語以外）

1) 活動（特色ある業務）に関して

①以下の短期海外研修を異文化コミュニケーション科目「多文化共生」として開講した。

- 「短期海外研修ⅠⅡ（スペイン）」
- 「短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイ）」
- 「短期海外研修ⅠⅡ（韓国）」
- 「短期海外研修ⅠⅡ（マレーシア）」
- 「短期海外研修ⅠⅡ（サンフランシスコ・ボランティア）」
- 「短期海外研修ⅠⅡ（オーストラリア）」

2) 関連イベント

①海外留学説明会

5 月 16 日（於：理学部インタビュースタジオ）に、(1) ①の短期海外研修を中心とした海外留学プログラムについての説明会を行った。

■パフォーマンス＆アート

1) 活動に関して

各授業でどのような機材や道具を必要としているか、教員同士授業時間以外にも随時見学できるようにした。合奏、独唱、音楽鑑賞については、どの程度の音量で周囲に聞こえているかを体験した。また、美術用品の管理などを通し、水戸キャンパス以外での開講について問題点を話し合った。

他の分野の授業を相互に理解することで各教員が担当する授業の特徴を知り、より充実させることができた。特に日にちを設定せず、常に情報交換をした。

2) 関連イベント

「水戸芸術館で学ぶ」では、音楽 12 月 23 日「池辺晋一郎監修・クリスマス・プレゼント・コンサート」、美術 1 月 17 日「水戸芸術館・施設見学、美術鑑賞」、演劇 2 月 16 日「柳家喬太郎独演会」の他に、12 月 13 日「フォルテピアノ～ワルター、エラール、スタインウェイ」として 3 台のピアノを弾き分けるという特別なコンサートの回を設定してもらい鑑賞を行った。

(6) 社会と生活部会（グローバル化と人間社会、ライフデザイン）

○ 「社会と生活部会」の活動

- 平成３１年 6 月 12 日に「社会と生活部会」において平成３０年度前学期および後学期開講の基盤教育科目「グローバル化と人間社会」に関する FD を実施した。とくに今後の課題として認識された点は、履修学生に対して授業外学修時間の積極的な取り組みを促進することであった。この点、前学期、後学期ともに担当教員によるバラツキが見られた。そこで部会において授業外学修時間の積極的な取り組みを部会で平均化していく工夫が必要だと認識した。この点において具体的かつ効果的な促進方法を検討して、部会全体にそれを FD や多くの担

当教員集団が構成メンバーである人文社会科学部の「旧学科会議」等に反映していくことを検討している。

・基盤教育「グローバル化と人間社会」の授業において「文理融合型」の科目を配置することが可能かどうかを、隣接する「自然・環境・科学部会」と議論しているところである。茨城大学において現状では「文理融合型」の授業科目があまり見られない故に、積極的に検討していく価値があると考えている。

(7) グローバル英語プログラム部会

○ 部門の活動（特色ある業務）

中期目標達成のための方策として、GEP 運営上の問題点とその解決策について、GEP 専門部会会議を通して協議してきた。中期計画の目標は、GEP 受講者が 2 年次生 320 名（学年 1600 名の 20%）であるのに対して、現状は 87 名（2 年次生総数の 5%）であった。平成 30 年度の GEP 対象者数（TOEIC550 点以上）は 250 名）であり、前提となる GEP 受講対象者数の増加については、英語力の高い入学者を求める必要性や全体的な英語力の底上げの必要性が指摘された。また、履修促進の方策としては、GEP に対する理解、認知度が低いため、内的（シラバス精査）、また外的（PR 活動）アプローチを用いる必要があげられた。ビデオ PR 及び GEP を受講するインセンティブの強化が検討された。

1．GEP 履修促進の方策（GEP の現状と改善点）

各学部の GEP 科目の充実　（専門科目を含む）

（1）学習者のニーズ分析によるシラバス改善

第 4 クォーター終了時に GEP 受講生を対象として Dream Campus 上でアンケートを実施した。主な内容は GEP 科目履修の動機、満足度、要望等。集計・分析は平成 31 年度とする。

（2）受講学生の英語力の二極化による授業難度の設定検討

プログラムの導入により受講学生の英語力の二極化により授業難度の設定に支障をきたしていることがアンケート結果及び授業担当者から問題点として挙げられた。そこで GEP 科目の中で、例えば TOEIC 800 点以上の上級レベルと TOEIC 600 点程度の英語力を対象とした中級レベル設定をし、シラバス等で明記することでより受講学生の英語力に合致した授業構成を図ることが対応策のひとつとして挙げられる。

（3）PR（授業紹介ビデオ撮影）

分かりやすいシラバスやプログラム概要を学生に伝えられるようにする必要があることから第 4 クォーター終了時に授業風景（授業担当：瀬尾先生）の動画撮影をした。今後ガイダンスや HP 掲載を通して PR する。

（4）インセンティブ強化の検討

大学院入試の際の利用の可能性について機構・全学教務委員会へ提言を検討する。また、農学部の AIMS プログラム参加のように、各学部での GEP 受講メリットが明確になると効果的である。更に、他大学、他学部を参考にしながら留学プログラムの充実を図る（例：千葉大学の全員留学制度や、茨大農学部国際職産業コース全員の留学制度）。GEP 終了学生が

学生間で認知されることにより他の学生のモチベーションを喚起する。更に全学教育機構の HP や「茨城大学コミットメント」等での GEP 受講者の記事や写真掲載を検討する。

２．GEP の質保証

GEP 各科目のシラバス、内容等についてはガイドラインに基づき授業担当者個人に任されている。質保証という点でシラバスチェックによる現状把握が必要であるため、令和元年度分のシラバスより GEP 部会によるシラバスチェックを実施した。評価方法については、GEP の評価基準を設けて次年度の評価の適正化に努めることとする。またネイティブの担当者も多いことから、ガイドラインの英語版を作成し、GEP 各授業の質的向上に努めることとした。

（１）GEP 授業担当者の確保と授業改善

GEP 授業担当者について、水戸地区は人文社会科学部教員が中心であるが、阿見地区、日立地区とも非常勤に頼っている。まず、学生の声をいかした授業を行える先生の確保が重要である。プログラム自体の訴求力を上げるために、各科目で改善し続け、学生にとって意義あるものを提供することが重要。AE IIIC は、GEP へ段階的な準備を行うブリッジ的存在になるように、授業内容の改善や差別化を継続して行う必要がある。

（２）平成 31 年度用シラバスチェック

平成 30 年度に開講している GEP 科目のシラバスの形式については確認されているが、内容の確認作業が行われていなかった点を踏まえ、クオリティコントロールの観点からシラバスチェックを下記の通り実施した。

GEP 科目シラバス	担当部会員
TOEIC and TOEFL 3 科目、English for Socializing 2 科目	小林
Studies in Particular Fields 5 科目（瀬尾先生担当分以外）	木村
Studies in Particular Fields 1 科目、Studies in Contemporary Japan 1 科目、Presentation in English 3 科目	瀬尾
Studying Abroad 1 科目、Academic Writing 3 科目	塚田
Bilingualism 2 科目、Academic Speaking 3 科目	館
Reading & Discussion 4 科目	菊池

（３）「GEP プログラム科目概要・補足説明」の英訳

GEP 科目の質的な向上を図るため、英語のネイティブスピーカー教員用に、各部会員が分担して「GEP プログラム科目概要・補足説明」の英訳を部会員全員で確認した。

(8) 日本語教育プログラム部会

(1) 活動（特色ある業務）に関して

外国語としての日本語を指導するために必要な専門知識と基礎能力の習得を目的としたプログラムである。人文社会科学部と教育学部の学生を対象としている。人文社会科学部のサブメジャ

ーになっている。

◎ 日本語教育プログラム「日本語教授法演習(海外)」

「日本語教育プログラム」の最終科目で、教育実習を含む「日本語教授法演習(海外)」の実施校にウィスコンシン州立大学、アイダホ州立大学、レンヌ第一大学が 2017 年度から加わり、7 校となった。また、同科目は「海外協定校におけるインターンシップ型日本語教師養成プログラム」として日本学生支援機構の平成 30 年度海外留学支援制度（協定派遣）短期研修・研究型（タイプA）に採択された。

2018 年～2019 年の約一年間、ブルガリアのソフィア大学とタイのトゥラキットバンディット大学にそれぞれ１名が留学し、「日本語教授法演習(海外)」の授業の一環として日本語クラスで実習を行った。

(2) 関連イベントの報告

①ブルネイ・ダルサラーム大学との授業交流

ブルネイ・ダルサラーム大学で日本語授業を履修している学生と、同プログラム「日本語教授法Ⅰ」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を行った。

②ウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流

ウィスコンシン州立大学スペリオル校で日本語授業を履修している学生と、同プログラム「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を実施した。

(9) 地域志向教育プログラム部会

１）部門の活動

①「茨城学」の推進

４年目を迎えた全学生必修の「茨城学」については、共通教育機構初年時教育部会での運営が２年目となり、コーディネーター3 名の体制下で実施した。グループ分けして行ったワークショップでは、全体の運営、各グループへのファシリテーションなど役割を担いながら、きめ細かな指導を行うことができた。具体的な企画を立てるにも、コーディネーターは、それぞれ、地域づくり、交流、経営といった分野の専門性と実践経験が豊富であったことから、学生からの質問に対してより実践的なアドバイスをすることができた。加えてワークシートを「事実の確認」「課題に対する考察」「グループディスカッションでの気づき」とステップを踏んだ構成・レイアウトに改善することで、思考法の獲得と授業テーマの定着を図った。内容的には（株）鹿島アントラーズ FC に新規に登壇いただいた。受講生は全学部 1669 名であった。

②「５学部混合地域 PBL」の実施

全学共通科目の「５学部混合地域ＰＢＬ」は、従来からのⅠ、Ⅱ、Ⅲに加え、平成 30 年度はⅣが新たに開講された。この新設により、本学全体での地域志向科目数は 89 科目となった。以下に今年度から開始したⅣを重点的に、H30 年度の実施概要を報告する。

５学部混合地域ＰＢＬⅠ（１年生以上対象、連携先：ひたちなかまちづくり株式会社ほか）、同Ⅱ（２年生以上対象、連携先：株式会社サザコーヒー）、同Ⅲ（１年生以上対象、連携先：

茨城県、常陸大宮市）を、いずれも夏季集中の形式で例年どおり実施した。それぞれ 31 名、34 名、28 名の受講生であった。

今年度から開講した「5 学部混合地域 PBL Ⅳ」は、茨城県国際観光課及び茨城県国際交流協会の協力を得て、外国人留学生と日本人学生が協働で海外に向けて茨城をアピールするプロジェクト型の PBL 授業である。平成 30 年度の前期に 5 学部の 1 年生以上を対象に行った。最大の特徴は授業が全て英語で開催された点である。日本人学生 18 名、留学生 8 名の計 26 名が参加し、茨城県を PR する動画を作成し、本学グローバル教育センターの YouTube ページで公開した。公開された動画の画像を以下に例示する。

写真１　茨大生活の紹介

写真２　納豆の紹介

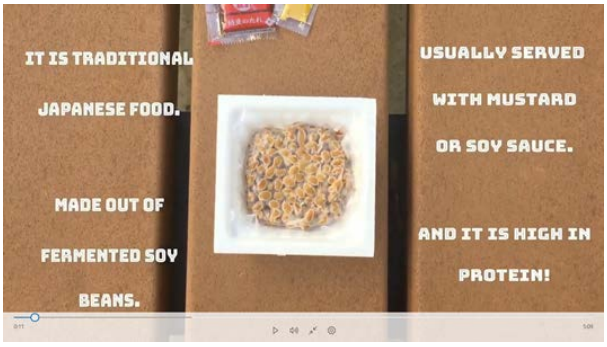


写真３　龍神大橋とバンジージャンプ

写真４　笠間焼

２）関連した活動

「５学部混合地域ＰＢＬ　Ⅰ」受講生グループの中から、学修フィールドとなったひたちなか市での地域活動に取り組みたいとして、「ぴたっとひたちなか」という１年生４人のグループが誕生し活動を続けている。ひたちなか市にぴたっと密着する意味が込められている。

まず取り組んだのが、ひたちなか名産の干し芋について、なぜ若者に人気がないのか、干し芋という名前に問題があるのではないかという視点から、「干し芋に関するアンケート調査」（12 月 25 日～12 月 31 日・ネット調査　100 件規模の解答）を実施した。干し芋は好きで食べたいけれど、価格やイメージ、干し芋という名前などが、干し芋に手を出しづらい要因だという結果を得た。そこで、干し芋の新たな呼び方を募集し、干し芋会社にも提案する

[ほしいRename]という企画を立ち上げ実施した。実施にあたっては、有名干し芋会社の幸田商店（ひたちなか市）の協力も得ながら準備を進めた。

３）地域志向教育プログラムの修了生

平成 27 年度から開始された本プログラムも４年が経過し、平成 30 年度には 61 名のプログラム修了生を輩出した。なお、平成 31 年 3 月末時点では 95 名の３年次生が翌年度修了見込み者であった。

(10) 地域協創人材プログラム部会

１）部門の活動

①「茨城学」の COC プラス参加校への配信

COC プラス事業大学間連携地域志向科目である茨城大学全学教育機構基盤教育科目「茨城学」の COC プラス参加校への配信を実施した。平成 29 年度は配信のみであったが、平成 30 年度は講師とのディスカッションの時間に、COC プラス参加校との交流を開始した。時間割が合わない茨城高専については､引き続き DVD 録画で学内閲覧可能とすることで共有した。茨城大学では全学必修科目のため 1,669 人、茨城キリスト教大学では 46 人、常磐大学では 54 人、県立医療大学では 47 人の学生が受講した。

また、平成 30 年度から「授業推進ワーキンググループ（茨城 COC プラス推進協議会下部組織)」を設置し、「茨城学」への COC プラス参加校の参画や授業運営の向上・発展のための協議、及び平成 31 年度新規開講科目「地域協創 PBL」の連携実施について協議を重ねた。「茨城学」に関しては、平成 31 年度は茨城県立医療大学が地域医療をテーマに登壇することが決定し、また COC プラス参加校学生乗り入れ型の「地域協創 PBL」の新規開講を機に、本学及び COC プラス参加校間において共通教育プログラム「地域協創人材教育プログラム」の構成科目を中心とした包括的な単位互換協定を平成 31 年 3 月に締結した。

写真 1 :「茨城学」VCS 接続中の講堂の様子

写真 2：授業推進ワーキンググループ

②「仕事を考える」

地域協創人材教育プログラムを構成する就業支援科目として、県内企業へのプレインターンシップ（1 day インターンシップ）を組み込んだ「仕事を考える」を開講し、人文社会科学・理・教育学部の 2 年次を対象とした第 2 クォーターの授業では 41 名が、工・農学部の 1 年次を対象とした第 4 クォーターの授業では 31 名が受講した。

写真１「仕事を考える」授業風景（第２クォーター）
お金の知識を学ぶ（日本銀行講師）

写真２「仕事を考える」授業風景（第４クォーター）
女性の活躍を学ぶ（（有）モーハウス講師）

③「インターンシップ実習Ⅰ」

学生のインターンシップへの参加を促進するために、「地域協創人材教育プログラム」の認定科目として平成 30 年度より基盤教育科目「インターンシップ実習Ⅰ」を新規開講した。平成 30 年度は、人文社会科学部 1 年次の学生と 2 年次の学生 2 名が、当該科目を活用してインターンシップを実施し、単位を取得した。キャリア支援科目やガイダンス等を通して学生のインターンシップへの参加を推進していることから、次年度以降の履修学生の増加が期待できる。

２）関連イベント

① インターンシップマッチングフェアの開催

インターンシップ科目への関連イベントとして、地域企業との連携強化に向けた学生への情報提供とマッチング環境の整備のため、夏季には「平成 30 年度いばらき COC プラス合同インターンシップマッチングフェア」を平成 30 年 7 月 14 日（土）に開催し、本学及び COC プラス参加校の学生計 64 名が参加した。また、冬季には「平成 30 年度いばらき COC プラス合同若手 OB/OG 交流会＆インターンシップマッチングフェア」を平成 30 年 12 月 22 日（土）に開催し、本学及び COC プラス参加校の学生計 57 名が参加した。特に後者のイベントでは「同じ大学出身の先輩からの話を聞くことができ、入社後のイメージがつかみやすかった」「OB/OG の生の声をきくことができて参考になった」等、満足度の高い結果となった。

写真 1：夏季インターンシップマッチングフェア

写真 2：冬季インターンシップマッチングフェア

② 「第 12 回かさま新栗まつり」への出店

平成 29 年 12 月に実施した「マルシェ・ド・カサマロン」の後継プロジェクトとして、平成 30 年度は笠間市にあるパン製造・販売企業協力のもと、「第 12 回かさま新栗まつり」へ出店した。当該プロジェクトは、地方公共団体や企業等と協働した企画・提案型インターンシップとして、学生のアクティブラーニングや PBL といった能動的学習を支援することを目的としたものであり、茨城大学生 6 名が参加し商品の企画・製造・販売の一連の流れをインターンシップを通して体験した。2 日間の出店で、準備した 3 商品（コーヒーマロン 130 個、ゆきぐり 200 個、マロンクリームパン 34 個）を完売した。当該プロジェクト参加学生のうち 1 名が上記「インターンシップ実習Ⅰ」に履修を申請し単位を取得している。

出店風景 1

出店風景 2

「ゆきぐり」

「コーヒーマロン」

３）地域協創人材教育プログラムの認定予定

H28 年度から開始した本プログラムも 3 年が経過し、H30 年度末時点で計 8 名が来年度認定見込み者となった。インターンシップへの単位認定を申請する学生が少ないことが影響していると考えられた。

(11) AIMS プログラム部会

1) AIMS 部門の活動

AIMS（ASEAN International Mobility for Students）プログラムとは、東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）の高等教育開発センター（RIHED）が運営を統括する学生交流促進事業

である。茨城大学は、東京農工大学、首都大学東京とともに「ASEAN 発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成」というテーマで大学の世界展開力強化事業（平成 25 年度）に採択され、AIMS 加盟校となった。本学は、地域社会の持続的発展の基礎となる安全な地域づくりと環境保全に主眼をおいた「地域サステイナビリティ」をテーマとして、「環境変動適応・防災論」や「地域環境管理論」、「環境共生論」、「環境保全型農業論」など 10 科目 15 単位の特色ある AIMS プログラム科目を提供している。

当初、これらの科目は農学部専門科目として開講されていたが、平成 30 年度には全学教育機構共通教育部門の AIMS プログラム部会が茨城大学 AIMS プログラム運営委員会と連携して管理運営する体制を整え、大学共通科目としての運用を本格化した。国際交流の促進に向けて協定校との連携をさらに拡大した結果、ボゴール農科大学、ガジャ・マダ大学、スリウィジャヤ大学、カセサート大学に加え、ブルネイ・ダルサラーム大学から留学生が来日することとなり、計 19 名の AIMS 学生を農学部特別聴講学生として受け入れた。

なお、「大学の世界展開力強化事業」による AIMS プログラム補助事業は平成 29 年度で終了したものの、引き続き 3 大学が協力して運営体制を継続し、授業科目の乗り入れや事前共通教育を行うこととなっている。同事業の事後評価においては、我が国の大学教育をけん引し、更なるグローバル展開力に寄与していくことが期待されるとして、文部科学省の大学の世界展開力強化事業プログラム委員会より S 評価を受けた。

2) AIMS 関連イベントの報告

AIMS プログラム科目は主に AIMS 加盟大学からの留学生を対象とする科目群であるが、本学学生も英語による専門科目への挑戦、あるいは留学の準備として受講することが可能である。受入学生に対しては、授業科目の開講のみに留まらず、来日期間全体を通して受入プログラムとして管理運営しており、入国から帰国まで担当教職員が一貫してサポートを提供することで、受入学生の安全管理と満足度の向上に寄与している。

【地域サステイナビリティ学特別講義 II】

また、地域サステイナビリティ学セミナー・ラボワーク（計 3 単位）を設定し、学生たちの希望に沿って研究室に配属して継続的な実験・実習の機会を提供することで、充分な研究体験

を与えることで、本学学生との密接な交流を実現している。また、研究室配属により修士課程への進学が促され、これまでに AIMS 受入学生 2 名が国費留学生（大学推薦）として大学院農学研究科に入学している。

【ラボワークの様子（カセサート大学からの受け入れ学生と園芸学研究室・望月助教)】

AIMS による交換留学生の増加にともない、相互交流の機会が飛躍的に増加している。特に、学生が組織した留学生支援サークル“Let's Hang Out”が中心となって様々なイベントを行い、留学生の受け入れ環境向上に寄与している。これらの活動により、日本人学生も英語運用能力を身に着け、派遣プログラムへの参加が促進されている。

【学生サークルによる AIMS 受入学生送別会】

平成 30 年度はグローバル教育センターの瀬尾講師が中心となって申請した中島記念交流財団の助成「地域住民を交えた留学生支援及び地域の国際理解促進」が採択され、阿見町国際交流協会と協働で阿見キャンパスの留学生・日本人学生と阿見町民との交流事業を行った。9 月には、留学生・日本人学生・町民が参加した異文化理解入門ワークショップ及び新入留学生歓迎交流会を開催した。10 月から 1 月にかけては、本学の留学生と地域の在留外国人に向けた日本語授業（毎週水曜日）、English カフェ（月 1 回）、地域住民に向けた留学生による各国紹介イベント（月 1 回）、2 泊 3 日のホームステイ（11 月）、ホームステイ報告会（1 月）を実施した。

【English カフェ】

【文化紹介イベント（タイ）】

(12) 大学院共通科目部会

○ 部門の活動（特色ある業務）

本学では、大学院教育を限られた専門分野にとどめず、広い俯瞰的な視野とコミュニケーション力、創造性と想像力を育成する組織化された教育を行うため、大学院共通カリキュラムを導入している。各大学院研究科が協力して大学院共通科目部会を運営して「科学と倫理」や「国際コミュニケーション基礎 A」、「研究と教育－知の往還をめぐってー」、「食料の安定生産と農学」など 22 科目の特色ある大学院共通科目を提供している。

今年度は大学院共通科目の継続性が求められ、提供科目は昨年と同じものとなったが、来年度は中央教育審議会大学分科会における審議まとめ「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿」をふまえて、大学院共通カリキュラム実施要項を抜本的に見直す予定である。

(13) AI・データサイエンス専門部会

○部門の活動（特色ある業務）

SDGs や超スマート社会（Society5.0）、第４次産業革命など、社会変化が激しく予測不可能な時代において、数理・データサイエンス教育が未来社会を開くと期待されている。本学では IT 基盤センターおよび工学部、全学教育機構の教員で「AI・データサイエンス入門」と題したパイロット授業を第４クォーターに全８回のオムニバス形式で行った。授業アンケート結果から、受講生の理解度、満足度とも 87.5%と高評価であった。さらに、同科目の幾つかの内容を日立市・日立地区産業支援センター・茨城大学連携公開講座や茨大 1day キャンパス in 土浦二高で行うことで、地域社会および学外教育に対しても貢献した。(資料 2-B-05)　なお、令和元年度から、「AI・データサイエンス入門」を正規の授業として 2 本開講するとともに、新たに、「AI・データサイエンス基礎演習」と題したパイロット授業を開講する。(資料 2-B-01、2-B-02)

○ 学生支援部門

１．バリアフリー推進室関連（資料 2-C-51_2018 バリアフリー活動実績、資料 2-C-52_ピアサポーターの認定制度承認資料）

① 3 キャンパスにおける相談体制強化を図り、相談件数は前年度を更に上回った。

バリアフリー推進室 キャンパス別 相談件数	区分	水戸	日立	阿見	計
	延べ人数（名）	1100	404	351	1855
	実人数（名）	143	53	52	248

※過去相談件数との比較

2017 年度にバリアフリー推進室が全学教育機構下に入り本格始動してから、3 キャンパスでの相談体制を整備し、相談件数は格段に伸びた。2018 年度は前年度を更に上回る相談件数となっている。

2016 年度（水戸キャンパスのみ）：延べ人数 307 名　実人数 41 名

2017 年度（水戸・日立・阿見 合計）：延べ人数 1519 名　実人数 201 名

② 授業等における合理的配慮手続き

配慮に向けての相談及び実際の手続き等を行った人数　13 名

※ これら学生が受講する各授業の配慮内容検討と各部局との適切な配慮の調整等をコーディネートした。

③ 平成 31 年度入試における障害等のある入学志願者の事前相談

受験上等配慮人数 実人数 14 名（前期入試、後期入試）

※ 申請のあったこれら受験者の適切な配慮について、受験者とのやり取り、当該部局との適切な配慮の調整等を行った。

④ ピアサポーターの育成

茨城大学学内における認定制度を新たに整備し、事前研修を行った後に全学教育機構長による認定を受け正規活動を行う形を整えた。

・ 養成講座（研修会）開講：計 8 回

１）4 月 27 日 「カウンセリングマインド」

２）5 月 25 日 「発達障害を理解する」

３）6 月 21 日 「精神障害を理解する①」

４）7 月　2 日 「精神障害を理解する②」

５）7 月 31 日 「カウンセリングマインド②」

６）3 月　7 日 「パソコンテイク講座①」　外部講師　茨城県聴覚障害者福祉センター

７）3 月　8 日 「パソコンテイク講座②」　外部講師　茨城県聴覚障害者福祉センター

８）3 月 20 日 「ピアサポーターとしての基本的心構え」

・ ピアサポーター・ゆめ大会サポートボランティア情報提供希望登録者数　130 名

⑤ アクセシビリティリーダー養成（講座開講）

多様な可能性を開拓する社会の構築推進をしていくために、必要なアクセシビリティに関する知識・技術・経験とコーディネート能力をもった人材を輩出することを目的とした、アクセシビリティリーダーの育成のための体制整備等を行った。

2018 年度は、昨年度に引き続きアクセシビリティ教育第 1 課程の承認をアクセシビリティリーダー育成協議会より得て所定の講座を開講し、本学からアクセシビリティリーダー認定試験 2 級合格者 9 名（内、学生 8 名、教員 1 名）を輩出した。

⑥ 障害のある学生を対象とした自主学習室の整備

2017 年度に開設し、試験的に運用していた主に発達障害や精神障害のある学生の学習や休息のスペースである自主学習室(やすらぎルーム、水戸キャンパス共通教育棟 1 号館 131 室)について、運用を本格始動した。

2．キャリアセンター関連

① 就職ガイダンス （資料 2-C-01：就職ガイダンス実施日程）

日時：毎週水曜 3 限

開催回数：36 回（水戸キャンパス）

参加者：合計 2344 名

場所：図書館 3F ライブラリーホール　ほか

内容：学生のインターンシップ参加や就職活動支援ガイダンス

※ 日立・阿見キャンパスでも開催しており、2018 年度は各々63 回、36 回開催された。

② 説明会

1）合同企業説明会（資料 2-C-02：合同企業説明会）

日時：2019 年 3 月 1 日（金）、2 日（土）、3 日（日）10：00～16：00

場所：図書館 1F 共同学習エリア

内容：学部 3 年生、修士 1 年生を対象とした就職のための企業説明会

参加者：学生延べ人数 603 名、企業 216 社

※ 日立キャンパスでも開催しており、2018 年度は企業研究会を 2019 年 2 月 18 日(月)～21 日(木)、企業説明会を 2019 年 3 月 1 日(金)、4 日(月)、5 日(火)に開催した。

参加者：学生延べ人数 1445 名、企業 226 社

2）国家・地方行政団体等業務説明会（資料 2-C-03：国家・地方行政団体等業務説明会）

日時：2019 年 1 月 31 日（木）12：00～16：10

場所：図書館 1F 共同学習エリア

内容：学部 3 年生、修士 1 年生を対象とした行政機関説明会

参加者：学生延べ人数 609 名、30 団体

③ インターンシップマッチングフェア

1） 茨城大学学内インターンシップマッチングフェア　キャリアセンター主催（資料 2-C-04：イ

ンターンシップマッチングフェア［学内］）

日時：2018 年　6 月 13 日　（水）12：40 ～ 14：40

6 月 20 日　（水）12：40 ～ 14：40

11 月 14 日（水）14：00 ～ 16：00

場所：図書館 1 階共同学習エリア

内容：茨城県内企業への就職を考える、学部 1 年～3 年生を対象とした、インターンシップマッチングフェア

参加者：　6 月 13 日　　17 社　学生参加人数 97 名

6 月 20 日　　18 社　学生参加人数 77 名

11 月 14 日　　12 社　学生参加人数 31 名

2）地元企業を学ぼう・インターンシップマッチングフェア　COC プラス事業と共催（資料 2-C-05：インターンシップマッチングフェア［COC+07］）

日時：2018 年 7 月 14 日（土）13:00～16:10

場所：駿優教育会館

内容：学部 1～3 年生を対象とした企業等 26 社のインターンシップマッチングフェア

参加者：64 名（内茨大生 15 名）

3）業界研究・インターンシップマッチングフェア　COC プラス事業と共催（資料 2-C-06：インターンシップマッチングフェア［COC+12］）

日時：2018 年 12 月 22 日（土）13：00 ～ 16：30

場所：駿優教育会館

内容：学部 1～3 年生を対象とした企業等 19 社のインターンシップマッチングフェア

参加者：57 名（内茨大生 19 名）

④ インターンシップ参加手順などの整備（資料 2-C-07：インターンのご提案）

インターンシップについての手続方法や取扱がわかりづらいところが見られたため、学生向けとして「インターンシップの手引き」を新たに作成し、就職ガイダンスにて活用した。また、新規でインターンシップを検討している企業等に向けて「5 つのインターンシップのご提案」を作成した。

⑤ 業界研究

1）「就活応援バスツアー　茨キャリ号」キャリアセンター主催

日時：2019 年 2 月 18 日（月）9:00～17:00（資料 2-C-08：バスツアー）

場所：水戸プラザホテル、リコージャパン茨城、全国農業協同組合連合会、株式会社常陽銀行

内容：企業を訪問し、会社説明・職場見学・若手職員との座談会・質疑応答

参加者：２２名

2）業界研究会（資料 2-C-09：業界研究会）

日時：10 月～2 月

場所：キャリアセンター
参加企業：17 業界
内容：学生が直接業界の情報が濃密にできる機会として学内に企業を迎え開催

⑤ 実践的な就職支援

1）未内定者向けキャリア相談
開催日：8 月 20 日、22 日、9 月 10 日、12 日
内容：夏時点で未内定の者に向けた就職相談会
参加者：11 名

2）面接練習会
開催回数：8 回
参加者：70 名

3）グループディスカッション対策講座
開催回数：22 回
参加者：226 名

4）就職模擬面接会　人文学部と共催
開催日：2019 年 1 月 10 日（木）
場所：人文学部
内容：2 社の企業人事担当者を迎えての模擬面接会

5）内定者セミナー
開催日：2019 年 1 月 16 日（水）
場所：図書館 1 階共同学習エリア
内容：今年度内定の決まった 4 年生による 3 年生への就活のノウハウの説明会

6）内定者による就活支援サークル‘With’主催の講座・イベント
開催日：1 月～2 月　複数回開催
場所：キャリアセンター
内容：これから就職活動をする 3 年生に対しグループディスカッションの練習、キャリアセンターイベントの広報等

⑥ 就職支援関連における上記以外の活動

・キャリア教育

1 年次からの体系的なキャリア教育の構築に関しては、身近な社会を知る 1 年次の「茨城学（必修）」を引き継ぐ形で、前年度に引き続き 1 年次第 4 クォーター、2 年次第 2 クォーターに「仕事を考える（選択）」を COC 及び COC プラス事業と連携して開講した。また、今年度は新たに 1・2 年生対象に「インターンシップ実習（1 単位・選択）」を開講した。更に、日立キャンパスにて 2 年次が履修できる「キャリアデザイン論（1 単位・選択）」を次年度新たに開講する方向で体制整備等を行った。次年度開講予定の 3 年次「ライフデザイン（必修）」を各学部と協議のもと体制整備等を行った（学部別に 12 授業開講）。

・茨大キャリアナビの機能強化

キャリアセンターで利用している就職支援システム「茨大キャリアナビ」の機能を活用し効率化と活性化を図った。WEB 予約による効率化、更にキャリアカウンセラー、キャリアセンター教職員、ハローワークジョブサポーターのキャリア相談に関する全ての情報についてシステムによる一元管理、相談学生の状況などを共有しオンタイムでの把握などを行えるようにした。なお、これらの情報共有については 3 キャンパスのどこからでも登録・予約・相談記録の入力・確認ができ、3 キャンパスの格差低減に寄与できた。また、予約無しの相談にも随時できる限り対応した。

・iOP の周知

iOP を広く周知するための「iOP ラボ」の企画運営を行い、キャリアセンター企画として留学生向け WORK IN JAPAN、つまみぐインターンシップ、企業の魅力プレゼン大会、2020 年式採用基準教えますなど、10 月～2 月にかけて計 10 回開催した。

・留学生を対象とした就職支援

JICE 日本国際協力センターと連携し「留学生のための就職研修会」を 3 地区、各 5 回開講（水戸 10/15、29、11/12、26、12/10、日立 10/22、11/5、11/19、12/3、12/17、阿見 10/23、11/6、11/20、12/4、12/18）で実施した。

・キャンパス間の格差是正

3 地区に就職支援担当部署を置き、キャリアカウンセラーによる就職相談、就職ガイダンスをはじめ各種就職支援が同様に行われる体制をとっており、9/28 に「カウンセラー会議（3 地区)」を実施し、各キャンパスの情報共有及び課題共有を行った。また、キャリアセンター専任教員が日立・阿見キャンパスに出向き、各キャンパスの課題把握に努めた。

・海外インターンシップ

「日立オートモーティブズ（HAMS）海外事業所インターンシップ」を工学部主導のもとサポートし実施（約 2 週間の本格的な海外インターンシップ、理工学研究科学生対象、ドイツ 1 名、中国 1 名)、「青年中国上海スタディーツアー」実施（茨城県国際交流協会主催、キャリアセンターサポート、3/4～8 実施、参加学生 12 名）

3. はばたく茨大生 春企画主催（資料 2-C-10：はばたく茨大生実施概要）

（ア） 日時：2018 年 4 月 5 日（木）11:30～13:00

場所：図書館 1F ラーニングコモンズ

内容：武道館における入学式後の昼休み時間を利用したプレ新歓祭において、新入生及び新入生の保護者らを対象に前年度行われた各種学外学修（発展学修、教育 iOP、海外学修、ボランティアなど）の事例報告をポスター発表形式（活動した学生がポスター脇に立ち自由に質疑応答できる形式）により行った。

成果：特に参観人数調査やアンケート調査は行わなかったが、多くの来場者があり、質疑応答する場面も見られ、茨城大学における学外学修（iOP）の認知アップが少なからずできたと思われる。

（イ） 日時：2018 年 4 月 18 日（水）～ 5 月 30 日（水）

場所：図書館 1F ラーニングコモンズ

内容：昨年度実施された学外学修事例について、ディプロマポリシーに沿った 4 テーマ

（地域活動、企業や学校でのインターンシップ、海外での活動、専門を生かした学外活動）に分類し、各テーマ 1 週間ごとにポスター展示、発表期間内に 2 回、活動者によるフリーの質疑応答時間を設けた発表を行った。企画の主な目的は、1 年次からの iOP に向けた準備啓発であったため、「大学入門ゼミ（基盤・必修）」を通じて 1 年生の参加を促し、テーマ毎に必ず 1 回参観するよう興味惹かれた活動への投票などの企画を行った。獲得票数の最も多かった活動に対しては、本企画終了後に表彰をして称え、今後の活動の活性化を図った。

成果：前年度に比較して 1 年生の参観者は増し、iOP の認知や早期からの準備の必要性といった意識が少なからずアップしたものと思われる。しかし、1 年生全員の参加には至らず、iOP への準備に対する意識はまだ弱く、更なる企画改善が必要と思われた。

4. **学長と学生の懇談会 主催**（資料 2-C-11：2018 前期 学長と学生の懇談会の実施報告書、 資料 2-C-12：2018 後期 学長と学生の懇談会実施報告）

① 2018 年度 前期 学長と学生の懇談会

日時：2018 年 7 月 11 日（水）14：30 ～ 17：00

場所：水戸キャンパス 共通教育棟２号館４階 ４１番教室

内容：学部 2 年次以上（理工学研究科 1 年次含む）を対象として、これまでの学生生活全般を通して感じたことから、茨大における学修環境及び学生生活の向上に向けて様々な視点から意見要望を出してもらい、三村学長の進行のもとクリッカー（即時型集計処理機器）を活用し議論を深めた。出された学生の意見は当該部局に問い合わせ、対応内容一覧を学内に掲示し学生への周知を図り、学生と教職員とのパートナーシップ向上を目指した。

参加者：学生 51 名（5 学部：2～4 年生、理工学研究科：1 年生）、教職員 13 名（三村学長、太田理事・副学長ほか）。

成果：懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

② 2018 後期 学長と学生の懇談会

日時：2019 年 1 月 16 日（水）14：30 ～ 17：00

場所：水戸キャンパス

社会連携センター３階 研修室

内容：新入生を対象に大学入学前後での大学生活における印象の違いをはじめ、大学生活全般で感じたことなどについて、クリッカー（即時型集計処理機器）を用いて学長が質問しながら議論を深めた。学生から出された意見は当該部局に問い合わせ、対応内容一覧を学内に掲示し学生への周知を図り、学生と教職員とのパートナーシップ向上を目指した。

参加者：学生 48 名（5 学部、1、2 年生）、教職員 10 名（三村学長、太田理事・副学長ほか）。

成果：懇談会終了後の参加学生を対象としたアンケート調査結果から、概ね目的は達成されたと判断された。

5. **学生支援に関する FD/SD の開催**（資料 2-C-13：ゲートキーパー養成講座実施報告書）

① 工学部学生支援の協業について

参加者：工学部 教員 70 名、職員 7 名

日時：2018 年 7 月 18 日（水）13:15～13:45

場所：工学部 E5 棟 8 階イノベーションルーム

② ゲートキーパー養成講座

参加者：教職員 64 人（水戸 48 人、日立 9 人、阿見 7 人）

日時：2019 年 2 月 12 日（火）13:00 ～16:00

場所：水戸キャンパス図書館ライブラリーホール・セミナールーム（日立・阿見キャンパス VCS 配信）

成果：講座終了後の参加者を対象としたアンケート調査より、参加者全てにおいてゲートキーパーの理解が深まり、特に参加者のうち 38%が自身にとって非常に有益な内容だったと評価していていることが確認された。今回の参加者は全学の教職員数に対しては非常に少なく、今後更にゲートキーパー等の認知を広めるための機会の提供が必要と考えられた。

6. **各学部における学生担任マニュアルの制度化**（資料 2-C-14：全学向け参考用学生担任マニュアル 評議会承認資料）

学生支援部門会議及び中央学生委員会にて意見交換及び調整をし、各学部で学生担任マニュアルを作成し、それに基づく担任制度の実施充実を図ることを決定し、学生支援部門にて見本となる学生担任マニュアルを作成し、全学的に実施することが評議会をはじめ全学の会議にて了承された。2019 年度は見本マニュアルを参考にして各学部用に調整した学部学生担任マニュアルを作成し試験的に実施し、2020 年度に本格実施する予定。

7. **いきいき茨城ゆめ大会 iOP 関連**　（資料 2-C-15：基盤ボランティア授業シラバス）

iOP 及びボランティア授業単位として認定するための制度整備を行った。

◎ 2019 年度より基盤科目において「（公共社会）多様性社会に関わるボランティア活動」（各 1～4Q・1 単位）として障害に関するボランティア活動を登録できる授業の開講準備を行った。

◎ 各種日程調整

・iOP 及び授業単位としての登録に関する説明会 2019 年 6 月開催

・事前基礎講座（バリアフリー推進室担当）

・県庁職員による直前説明会）2019 年 9 月 27 日予定

8. **学内学生活動支援「除草を目的とした山羊飼育」**（資料 2-C-16：山羊飼育活動報告書）

日時：実施期間 2018 年 10 月 14 日（日）～ 2018 年 10 月 26 日（金）

場所：除草場所 茨苑会館前庭園、夜間飼育場所 教育学部 BC 棟間

内容：持続可能な社会及び環境について考える機会として、学内での山羊による除草活動

を COC 統括機構との協働にて行った。活動参加学生の対象として、特に学校教育において動物飼育を取り入れた学習を行っており、その指導に立つ教員においては活動の意義を一度深く考えることは非常に有意義であると考え、教育学部学生とした。参加学生数 10 名、支援教職員 5 名。（主催：全学教育機構、後援： COC 統括機構・教育学部）

成果：実施後の参加学生との意見交換会及びアンケート調査結果から、将来教員になる人に限らず、大学生全般において有意義な経験であると考えられ、今後大学全体として活動の機会があるとよいといった意見が複数あったことをはじめ、体験学修として有益であったものと推察された。

○ 国際教育部門

・国際教育部門の平成 30 年度の活動記録は以下のとおりである。

【部門の活動・定例業務】

月	活動記録
4 月	4 月 3-5 日－交換留学生オリエンテーション 4 月 5 日－交換留学継続生のためのガイダンス 4 月 9 日－外国人留学生新入生ガイダンス（写真１） チューターガイダンス 4 月 18 日－日本語研修コース受講生学外研修旅行（阿見キャンパス農場見学、筑波山） 4 月 25 日－ブルネイランチ交流会
5 月	5 月 16 日－海外留学説明会、「はばたく茨大生」 5 月 23 日－海外ボランティア・TOEFL 説明会
6 月	6 月 1 日－公開講座「茨城大学で学ぶ留学生が見た日本社会～留学生達が行ったインタビュー調査をもとに話し合おう！～」（日本語研修コースレベル４（総合）の留学生による） 6 月 8-10 日－日本語研修コース受講生のホームステイ 6 月 20 日－日本語研修コース『茶道・華道体験』 6 月 26 日－水戸市の姉妹都市アナハイム市の学生親善大使との交流 6 月 27 日－海外留学サロン
7 月	7 月 7-8 日－国際交流合宿研修 7 月 4 日－派遣留学生のための留学前ガイダンス 7 月 18 日－交換留学生向け帰国前ガイダンス（前学期） 7 月 28 日－オープンキャンパス「国際交流留学案内」 7 月 29 日－公開講座「茨城大学で学ぶ留学生達の出身国」（日本語研修コースレベル４（総合）の留学生による）
8 月	8 月 8 日－「5 学部混合地域 PBL IV」最終報告会
9 月	9 月 19-21 日－阿見キャンパス新入留学生向けの集中日本語初級コースの開講 9 月 21 日－異文化理解入門ワークショップ・新入留学生歓迎交流会（阿見町国際交流協会との共同事業） 9 月 24-26 日－日本語研修コースのオリエンテーション
10 月	10 月 13 日—阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業） 10 月 17 日－協定校派遣留学説明会 10 月 20 日—阿見キャンパスホームステイ　ホストファミリー向けの説明会（阿見町国際交流協会との連携事業） 10 月 31 日－留学生、チューター、教職員のための国際交流パーティー 日本体験学習　農学実習 10 月 5-26—ブルネイ・ダルサラーム大学の学生との授業交流

11 月	11 月 7 日－日本体験学習　茶道・華道体験 11 月 9 日－公開講座「世界の文化を知る：インドネシアの文化紹介」（阿見町国際交流協会との共同事業） 11 月 9-11 日－阿見キャンパス留学生ホームステイ（阿見町国際交流協会との共同事業） 11 月 14 日－留学生のための防災訓練 11 月 30 日—ウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流
12 月	12 月 1 日-2 日　第 14 回茨城学生国際会議 12 月 15 日—阿見キャンパス English Café（阿見町国際交流協会との共同事業） 12 月 15 日—公開講座「世界の文化を知る：ブルネイの文化紹介」（阿見町国際交流協会との共同事業）
1 月	1 月 5 日－公開講座「世界の文化を知る：タイの文化紹介（阿見町国際交流協会との共同事業） 1 月 5 日—阿見キャンパス留学生ホームステイ報告会（阿見町国際交流協会との連携事業） 1 月 5 日－阿見町地域住民との交流会（阿見町国際交流協会との連携事業） 1 月 16 日－桜ノ牧高校訪問、文化紹介・交流（日本語研修コースレベル 5 の留学生による） 1 月 23 日－交換留学生向け帰国前ガイダンス（後学期） 1 月 27 日－公開講座「日本人とはだれか？多様化する日本社会についてみんなで考えよう」 「Studies in Contemporary Japan」ポスター発表会 1 月 30 日－海外派遣留学生のための危機管理ガイダンス
2 月	2 月 15 日—阿見・日立キャンパス向け海外留学危機管理セミナー
3 月	3 月 29 日－サポート隊ガイダンス 3 月 30 日－留学生同窓会　役員懇談会

新入生ガイダンス

7 月 7-8 日－国際交流合宿研修

11 月 7 日－日本体験学習　茶道体験

【部門の活動・特色ある業務】

１．新規協定校の開拓

① スロバキアのコメニウス大学人文学部と茨城大学全学教育機構及び人文社会科学部との間の部局間学生交流協定の締結

部局間交流協定が締結され、本学学生の留学希望者の多いヨーロッパ圏への派遣枠確保と、留学生の受け入れが期待できる。

２．短期海外研修の企画及び実施

① 「短期海外研修ⅠⅡ（スペイン）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（スペイン）」を開講した。スペイン・アルカラ大学において夏期短期語学研修が実施され、本学より 4 名の学生が参加した。

② 「短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイ）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイ）」を 8～9 月に開講した。ブルネイ・ダルサラーム大学において 4 週間にわたる英語研修が行われ、本学より 27 名の学生が参加した。

③ 「短期海外研修ⅠⅡ（韓国）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修Ⅰ（韓国）」を開講し、本学から 22 名（学部生 20 名、大学院生 2 名）が研修に参加し、学部生 8 名が同科目を履修した。

④ 「短期海外研修ⅠⅡ（マレーシア）」の開講

基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修ⅠⅡ（マレーシア）」の開講を企画し、実施した。平成 30 年度 10 月より募集を開始し、3 月に 2 週間 12 名派遣した。

⑤　「短期海外研修ⅠⅡ（サンフランシスコ・ボランティア）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（サンフランシスコ・ボランティア）」の開講を企画して実施した。本学より計 9 名（学部生 7 名、大学院生 2 名）が参加し、学部生 7 名が同科目を履修した。

⑥　「短期海外研修ⅠⅡ（オーストラリア）」の開講
基盤科目の多文化共生科目として「短期海外研修（オーストラリア）」の開講を企画し、13 名の学生が参加した。

３．協定校との教育交流　(資料 2-D-03、2-D-04)

①　ブルネイ・ダルサラーム大学との授業交流
ブルネイ・ダルサラーム大学で日本語授業を履修している学生と、日本語教育プログラム「日本語教授法Ⅰ」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を行った。

②　カナダ・サイモンフレーザー大学とのオンライン学生交流を企画
サイモンフレーザー大学の日本語授業を履修している学生と、グローバル・イングリッシュ・プログラム（GEP）の『Studying Abroad』科目を履修している学生とのオンラインによる学生交流を企画し、平成 30 年後期 1～2 月に実施した。

③　ウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流
ウィスコンシン州立大学スペリオル校で日本語授業を履修している学生と、日本語教育プログラム「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を履修する学生とのオンラインによる学生交流を 12 月に実施した。

ウィスコンシン大学スペリオル校の学生と、本学の日本語教育プログラム受講学生とのオンライン交流会

【関連イベント報告】

①小中学校・高等学校への留学生の派遣

今年度は、以下の県内各校に留学生を派遣し、地域の中学生・高校生と本学留学生との異文化交流を図った。

・10 月　県立桜の牧高等学校（3 名派遣）

・10 月、1 月　県立桜の牧高等学校城北校（12 名派遣）
・11 月　水戸第一高等学校（16 名派遣）
・11 月　竜ケ崎市立八原小学校（19 名派遣）

②学生国際会議の開催

平成 30 年 12 月 1・2 日、第 14 回茨城学生国際会議が開催した。本学の大学院生が主体となり企画運営をし、２日間で茨城大学の学生・留学生のほか、県内の高校生を含む 166 名が参加し、学生等による学術発表がすべて英語で行われた。また、昨年に引き続き、２日目の午後に水戸市内エクスカーションを企画した。また、ドキュメンタリー映画「Happy～しあわせを探すあなた～」の上映会および本映画のプロデューサーを招き、参加学生との活気あふれるディスカッションが行われた。(資料 2-D-05、2-D-06)

③日本語教育プログラム「日本語教授法演習(海外)」

「日本語教育プログラム」の最終科目である「日本語教授法演習(海外)」では、「日本語教授法演習（海外)」の実施校にウィスコンシン州立大学、アイダホ州立大学、レンヌ第一大学が 2017 年度から加わり、7 校となった。また、同科目は「海外協定校におけるインターンシップ型日本語教師養成プログラム」として日本学生支援機構の平成 30 年度海外留学支援制度（協定派遣）短期研修・研究型（タイプ A）に採択され、平成 30 年度には 3 名が派遣された。

平成 30 年度は、ブルガリアのソフィア大学とタイのトゥラキットバンディット大学にそれぞれ 1 名が留学し、「日本語教授法演習(海外)」の授業の一環として日本語クラスで実習を行った。

④地域住民との交流

公益財団法人中島記念国際交流財団の助成を受け、阿見町国際交流協会の連携事業として、茨城大学阿見キャンパスで学ぶ外国人留学生・日本人学生と阿見町に住む地域住民の交流を目指して、以下の活動を行った。

（1）地域と大学が連携した新入留学生ガイダンスの実施

新入留学生が来日してすぐの 9 月に、阿見町国際交流協会のメンバーに町の観光名所、ごみの出し方やスーパーの場所など生活に必要な情報を紹介いただいた。その後、留学生・日本人学生・地域住民はシミュレーションゲーム「バーンガ」を通して異文化コミュニケーションを体験し、どのように互いに理解し合えるかを話し合った。

（2）留学生が日本人学生及び地域住民に向けて自国の文化を紹介するイベントの開催

インドネシア（11 月)、ブルネイ（12 月)、タイ（1 月）の留学生が日本人学生と地域住民に向けて、自国の文化を紹介した。文化紹介後は、小グループに分かれてそれぞれの国の料理や飲み物を楽しみながら、さらなる交流を深めた。

（3）留学生と地域に住む在留外国人に向けた地域住民による日本語講座の開講

10 月～1 月の毎週水曜日に大学のキャンパス内にて、地域住民のボランティアが留学生に対して日本語の指導を行った。また、留学生が日本語を学ぶだけではなく、地域住民が英語を学べるよ

う、11 月と 12 月には、英語で交流をする English Café を行った。地域住民と留学生がそれぞれ学習中の言語を使いながら交流することで、言語学習の大変さを改めて知るよい機会となった。

（4）留学生と受入ホストファミリーの双方が学び合えるホームステイの実施

留学生と地域住民の交流が深められるよう、11 月に 2 泊 3 日のホームステイを実施した。ホームステイには、15 の家庭が参加し、19 人の留学生を受け入れた。ホームステイ期間中は、一緒に日本料理を作ったり、茨城県内の観光地に行ったりと、それぞれの家庭で交流を楽しんだ。

［資料：留学生向け日本語教育（単位なし）］

前期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル１（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル１（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル１（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル１（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル２（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル２（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル２（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル２（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	八若壽美子	水戸	15	15

日本語レベル３（総合）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル３（口頭表現）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル３（漢字）	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル４（総合）	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル４（総合）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル４（口頭表現）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル４（漢字）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル５（総合）	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル５（総合）	非常勤	水戸	15	15
多読で学ぶ日本語	池田庸子	水戸	15	15
日本事情	安龍洙	水戸	15	15
日本語入門 IA	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語入門 IB	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語初級 I	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語初級 II	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語中級	瀬尾匡輝	阿見	10	10
非漢字圏の人のための漢字	瀬尾匡輝	阿見	10	10

後期

科目名	担当者	開講地区	担当回数	開講回数
日本語レベル１（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル１（総合）	青木香代子	水戸	15	15
日本語レベル１（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル１（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル１（総合）	池田庸子	水戸	15	15
日本語レベル１（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル３（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル３（漢字）	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル３（口頭表現）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル４（総合）	瀬尾匡輝	水戸	15	15
日本語レベル４（総合）	八若壽美子	水戸	15	15
日本語レベル４（口頭表現）	非常勤	水戸	15	15

日本語レベル４（漢字）	非常勤	水戸	15	15
日本語レベル５（総合）	安龍洙	水戸	15	15
日本語レベル５（総合）	非常勤	水戸	15	15
日本事情	安龍洙	水戸	15	15
日本体験学習	安龍洙・塚田純	水戸	15	15
集中日本語入門コース	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語入門 IA	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語入門 IB	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語初級 I	瀬尾匡輝	阿見	10	10
日本語中級	瀬尾匡輝	阿見	10	10
非漢字圏の人のための漢字	瀬尾匡輝	阿見	10	10

③ 平成 30 年度における教員の活動

［機構長］

職位	氏　名	専門分野	本務所属
機構長	栗原 和美	電力工学・電気機器工学	理工学研究科（工学野）電気電子システム工学領域・教授/副学長

［評議員・副機構長］

職名	氏　名	専門分野	本務所属
評議員	松坂 晃	応用健康科学	全学教育機構 共通教育部門 教授
総合教育企画部門長	下村 勝孝	基礎解析学	理工学研究科（理学野） 数学・情報数理領域・教授
共通教育部門長	篠嶋 妥	金属物性	理工学研究科（工学野） 物質科学工学領域・教授
学生支援部門長	西川 陽子	食品科学，科学教育，食生活学	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コース 家政教育教室・教授/学長特別補佐
国際教育部門長	佐藤 達雄	園芸学・造園学，育種学，植物栄養学・土壌学	農学部 附属国際フィールド農学センター・教授/学長特別補佐
学務部長	向後光典	事務統括	事務局学務部

○ 総合教育企画部門

［専任教員］

職位	氏　名	専門分野	掲載頁
准教授	嶌田 敏行	教育学，大学経営	54
助教	佐川 明美	高等教育マネジメント	―

［兼務教員］

職位	氏　名	部門での役割	本務所属
教授	田中 耕市	各学部との連絡調整、学部内での教育改善施策の立案や実施	人文社会科学部 現代社会学科
教授	齋藤 芳徳		教育学部 情報文化課程
教授	中川 尚子		理工学研究科（理学野） 物理学領域
教授	横木 裕宗		理工学研究科（工学野） 都市システム工学領域
准教授	牧山 正男		農学部 地域総合農学科

○ 共通教育部門

［専任教員］

職位	氏　名	専門分野	掲載頁
教授	福田 浩子	言語教育，応用言語学，異文化コミュニケーション	57
教授	金 光男	地域研究，東アジア国際関係史	59
教授	松坂 晃	応用健康科学	―
准教授	Frederick Allan Shannon	応用言語学	61
准教授	小林 邦彦	異文化コミュニケーション、英語教育学、第二言語習得	63
准教授	小西 康文	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	65
准教授	菊池 武	英語教育	67
准教授	SCHMIDT-Fajlik Ronald	English language teaching pedagogy, intercultural communication	69
准教授	清水 恵美子	比較文学比較文化、日本近代美術史	71
准教授	佐藤 伸也	情報学基礎理論、計算機システム、ソフトウェア	75
准教授	上田 敦子	外国語教育	77
准教授	山崎 大	天文学　素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	79
講師	大森 真	英語教育	82
講師	佐々木 友美	外国語教育	―
講師	鈴木 聡子	外国語教育	84
講師	館 深雪	英語教育、言語教育、カウンセリング	85

［兼務教員］

職位	氏　名	部門での役割	本務所属
准教授	神田 大吾	多文化理解部会；初修外国語	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	横溝 環	多文化理解部会；異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	人文社会科学部 現代社会学科
教授	櫻井 豪人	多文化理解部会；ﾋｭｰﾏﾆﾃｨｰｽﾞ	人文社会科学部 人間文化学科
准教授	牧 良明	社会と生活部会	人文社会科学部 法律経済学科
教授	木村 昌孝	グローバル英語ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ部会	人文社会科学部 現代社会学科
准教授	渡邊 將司	心と体の健康部会	教育学部 人間環境教育課程
教授	谷川 佳幸	多文化理解部会；ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ＆ｱｰﾄ	教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コース 音楽教育教室
准教授	大塚 富美子	自然･環境･科学部会	理工学研究科（理学野） 数学・情報数理領域
教授	江口 美佳	自然･環境･科学部会	理工学研究科（工学野） 物質科学工学領域
教授	上妻 由章	自然･環境･科学部会	農学部 食生命科学科

准教授	坂上 伸生	AIMS ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ部会	農学部 食生命科学科
教授	安江 健	地域協創人材教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ部会	社会連携センター/農学部 食生命科学科

○ 学生支援部門

［専任教員］

職位	氏　名	専門分野	掲載頁
准教授	小磯 重隆	労働法、キャリア教育、教育社会学	86
講師	矢嶋 敬紘	社会福祉学，臨床心理学	88

○ 国際教育部門

［専任教員］

職位	氏　名	専門分野	掲載頁
教授	安 龍洙	日本語教育	90
教授	八若 壽美子	日本語教育	92
教授	池田 庸子	日本語教育	94
講師	青木 香代子	教育学（多文化教育、異文化間教育、国際理解教育）	96
講師	瀬尾 匡輝	日本語教育，外国語教育，教育社会学	98
助教	塚田 純	政治コミュニケーション、ジャーナリズム、メディア論	103

［兼務教員］

職位	氏　名	部門での役割	本務所属
教授	村上 雄太郎	各学部との連絡調整、学部内での国際教育施策の立案や実施	理工学研究科（工学野）　数理・応用科学領域
教授	湊　淳		理工学研究科（工学野）　数理・応用科学領域
准教授	坂上　伸生		農学部 食生命科学科

総合教育企画部門	氏名　嶌田 敏行

職名	准教授
学位	修士(理学)[金沢大学]
学歴	金沢大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程 地球環境科学専攻[2003 年単位取得満期退学] 金沢大学大学院 自然科学研究科 博士前期課程 生命・地球学専攻[1999 年修了] 金沢大学 理学部 地球学科[1997 年 03 月卒業]
職歴	茨城大学 IT基盤センター 教育 IT 化推進部門(兼務)(2018 年 5 月～) 茨城大学全学教育機構 総合教育企画部門准教授(2016 年 8 月～) 茨城大学大学戦略・IR室准教授(2015 年 4 月～2016 年 7 月) 茨城大学大学戦略・IR室助教(2014 年 10 月～2015 年 3 月) 茨城大学 助教評価室(2007 年 4 月～2014 年 9 月) 茨城大学 IT基盤センター ITシステム運用部門(兼務)(2005 年 7 月～2018 年 4 月) 茨城大学 助手評価室(2005 年 3 月～2007 年 3 月) 茨城大学 学術企画部 企画課 大学改革係(2004 年 4 月～2005 年 2 月) 茨城大学 水戸事業場衛生管理者(2004 年 4 月～) 茨城大学 総務部 総務課 大学改革推進室 大学改革推進係(2003 年 4 月～2004 年 3 月) 防災科学技術研究所非常勤職員(文部科学省研究開発局防災科学技術推進室勤務)(2002 年 7 月～2002 年 8 月)
専門分野	地球環境変動　教育学　大学経営
教育研究概要	(研究経歴)・湖沼堆積物を用いた歴史時代における古水文環境の復元 ・高等教育機関における自己点検評価手法の開発
	(キーワード)大学改革、評価
所属学会	米国 IR 協会　日本地形学連合　大学評価コンソーシアム　日本高等教育学会
受賞歴	なし
担当科目	なし

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)]嶌田敏行「データを活かした教育改善」, 茨城大学全学教育機構論集, 2, 99-102(2019 年 02 月)

2. [その他]情報誌「大学評価と IR」 第 9 号(編集)

○ 学会発表等

1.「米国におけるIR機能とその意味(国内)」, 国立大学協会政策研究所運営委員会;高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ 合同研究会『アメリカにおけるIRシステムと財務制度からみる大学間連携』(如水会館(東京都千代田区))[招待講演](2018 年 07 月)

2.「我が国のIR担当者の現状について(H30.7 月調査報告)」, 大学評価・IR担当者集会 2018(九州工業大学(福岡県北九州市))(2018 年 08 月)

3.「教育の内部質保証システムと学務系職員の果たす役割(国内)」, 茨城大学・宇都宮大学・福島大学合同 SD 研修会(茨城大学(茨城県水戸市))(2018 年 09 月)

○ 講演会・シンポジウム

1.「IR (Institutional Research)の役割と効果的な運用について(国内)」, 平成 30 年度 九州地区私立短期大学「教職員研修会」(福岡ガーデンパレス(福岡県福岡市))(2018 年 09 月)

2.「IRによる総合的な教務情報にもとづく教育改善支援～IRでどのように教育の質をモニタリングするか～(国内)」, 第 24 回 GAKUEN 全国ユーザ研修会(金沢市商工会議所(石川県金沢市))(2018 年 10 月)

3.「IR機能をどのように活かすかー事務機能・内部質保証システムー(国内)」, 大阪市立大学職場課題研修 IR 研修会(大阪府大阪市)(2018 年 11 月)

4.「教育改善をどのように進めるか～内部質保証のためのIRの活用～(国内)」, 茨城県立医療大学FD研修会(茨城県阿見町)(2018 年 12 月)

5.「自己点検・評価に活かすIR機能 ～内部質保証のためのIRの進め方～
(国内)」, 筑波技術大学FD・SD講演会(茨城県つくば市)(2018 年 12 月)

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 学協会での役職

1. 大学評価コンソーシアム, 副代表幹事(総務担当)(2011 年 09 月～)

○ 行政機関等での委員就任

1. 文部科学省 科学技術・学術政策局「研究開発評価推進検討会」[委員]

○ 学外教育

1.「平成 30 年度 IR 実務担当者連絡会:指標の立て方実践講習」[企画・運営、講義・演習担当](三重大学(三重県津市))(2018 年 11 月)

2.「継続的改善のためのIR/IEセミナー2019:国立大学法人評価情報交換セッション」[企画・運営、演習担当](九州工業大学(福岡県北九州市))(2019 年 03 月)

3.「大学評価・IR担当者集会 2018:分科会2「内部質保証に向けたIRや調査機能の育成、内部質保証システム設計・運用演習、研究マネジメントに資するIR」[企画・運営、講義・演習担当](九州工業大学(福岡県北九州市))(2018 年 08 月)

4. IRer養成講座 in 大阪(愛媛大学主催;関西大学梅田キャンパス(大阪府大阪市))[講義・演習担当](2018 年 10 月 18 日)

5.「IR初球人材育成セミナー」(九州大学主催;JR博多シティ[講義・演習担当](福岡県福岡市))(2019 年 3 月)

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費]基盤研究(B)(代表)「大学の評価・IR 機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用に関する研究」(2015 年 04 月 01 日～2019 年 03 月 31 日)

2. [科研費]基盤研究(C)(分担)「教学マネジメントを支援する大学の専門的職員のあり方に関する研究」(2018 年 04 月 01 日～2021 年 03 月 31 日)

3. [科研費]基盤研究(C)(分担)「大学の数量的な「共通知」から分析マインドを涵養する人材育成プラットフォームの開発」(2018 年 04 月 01 日～2021 年 03 月 31 日)

○ 共同研究・受託研究

1. [国内共同研究]「環境領域の研究コミュニティの効果的形成と運用に関する実践的研究」, 金沢大学環日本海域環境研究センター(2018 年 04 月～2019 年 03 月)

2. 金沢大学 客員研究員

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1.「全学教育機構 web サイト開設準備 TF」[座長](2017 年 11 月～)

2.「全学教育機構 点検評価委員会」[委員](2017 年 04 月～)

3.「全学教育機構 学術委員会」[委員](2017 年 04 月～)

○ 全学的委員会の業務

「図書館本館委員会」[委員](2017 年 10 月～)

「図書館運営委員会」[委員](2017 年 10 月～)

「教務情報ポータルシステム専門委員会」[副委員長](2017 年 04 月～)

「全学情報委員会」[委員](2015 年～)

「年俸制適用教員業績評価専門部会」[委員](2015 年～)

「教育改革推進委員会」[事務局](2019 年 04 月～)

「水戸事業場安全衛生委員会」[衛生管理者](2004 年～)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. 全学 FD、学部 FD 5回担当

2. 学部アドバイザリーボード話題提供 5回担当

3. [情報セキュリティ対策室](2006 年 07 月～)

業務内容:室員

5. [IT 基盤センター 教育 IT 化推進部門](2005 年 07 月～)

業務内容:部門員

○ その他の校務

1. 大学教育再生加速プログラム運用担当 (2018 年 08 月～)

共通教育部門	氏名 福田 浩子

職名	教授
学位	修士（国際コミュニケーション）［青山学院大学］
学歴	青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科 修士課程 国際ビジネス専攻（国際コミュニケーション）［1996 年修了］ 慶應義塾大学 文学部［1978 年卒業］
職歴	茨城大学全学教育機構教授（2017 年 4 月～） 茨城大学人文学部教授（2013 年 10 月～2017 年 3 月） 茨城大学人文学部准教授（2007 年 4 月～2013 年 9 月） 慶應義塾大学外国語教育センター上席研究員（2007 年 10 月～2011 年 3 月） 茨城大学人文学部助教授（2002 年 4 月～2007 年 3 月） 武蔵野女子大学人間関係学部非常勤講師（2000 年 4 月～2001 年 3 月） 獨協大学外国語学部非常勤講師（1999 年 4 月～2002 年 3 月） 獨協大学オープン・カレッジ講師（1999 年 4 月～2002 年 3 月） 青山学院大学国際政治経済学部兼任講師（1998 年 4 月～2004 年 3 月） 日本能率協会マネジメントセンター人事アセスメント研究所外部講師（1995 年 4 月～2002 年 3 月） 湘北短期大学非常勤講師（1990 年 4 月～1999 年 3 月）
専門分野	言語教育 応用言語学 異文化コミュニケーション
教育研究概要	（研究経歴）1995- 言語意識・言語への気づき（Language Awareness）の研究 2001- 大学における教養英語教育 2001- 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠と日本における外国語教育 2007-2009 言語意識教育：小学校からの英語・国語教育への提言（研究代表者、科研） 2007－2009 英語教育におけるプログラム・デザインのモデル化：ヨーロッパ共通参照枠の応用（科研） 2010-2012 グローカル時代の外国語教育－理念と現実／政策と教授法－（科研） 2011-2013 多言語・多文化に開かれたリテラシー教育についての研究：日本の言語教育への提言（研究代表者、科研） 2012-2014 外国語一貫教育における複言語・複文化能力育成に関する研究（科研） 2014-2016 多言語・多文化に開かれたリテラシー教育についての研究：初等教育と教員養成を中心に（研究代表者、科研） 2011- 複言語・複文化主義を取り入れた言語教育のリデザイン
	（キーワード）言語への気づき、言語意識教育、ELBE、EOLE、自律的学習、ヨーロッパ言語共通参照枠、ELP(European Language Portfolio)、複言語・複文化主義、大学教養英語教育、小学校の外国語活動、カリキュラム開発、CLIL、translanguaging
所属学会	大学英語教育学会 日本国際理解教育学会 日本言語政策学会 異文化間教育学会 異文化コミュニケーション学会
受賞歴	平成 14 年度後学期茨城大学推奨授業表彰（2003）
担当科目	（教養科目）Integrated English ＩA, Integrated English ＩB, Advanced English ＩB

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 全学的委員会の業務

「学生支援センターバリアフリー推進部会」[障害学生修学支援員(全学教育機構)](2017 年 04 月～)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会](2018 年 04 月～2019 年 3 月)

業務内容:FD 委員長

2. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会](2018 年 04 月～)

業務内容:IE Ⅰ コース・コーディネータ

3. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会](2018 年 04 月～2019 年 3 月)

業務内容:AE Ⅰ サブ・コーディネーター

4. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会](2017 年 04 月～2019 年 03 月)

業務内容:学習支援 English Lounge 学習相談(IE Ⅰ、総合英語プレレベル3)担当

5. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会](2018 年 04 月～2018 年 10 月)

業務内容:対学部リエゾン(理学部)

6. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会](2017 年 04 月～2018 年 03 月)

業務内容:書記(輪番)

7. [プラクティカル・イングリッシュ専門部会](2017 年 04 月～)

業務内容:委員

○ その他の校務

科学研究費助成事業申請制度助言者

共通教育部門	氏名 金 光男

職名	教授
学位	政治学修士[早稲田大学]
学歴	上智大学大学院 外国語学研究科 博士課程 国際関係論専攻[1992 年 03 月単位取得満期退学] 早稲田大学大学院 政治学研究科 修士課程 政治学[1987 年修了] 早稲田大学 社会科学部 社会科学科[1980 年卒業]
職歴	早稲田大学アジア研究機構・客員研究員(2008 年 4 月～2010 年 3 月) ｵｰｽﾄﾗﾘｱ、ﾆｭｰ･ｻｳｽ･ｳｪｰﾙｽﾞ大学人文社会科学部客員研究員(2000 年 4 月～2001 年 3 月) 東京外国語大学外国語学部東南アジア課程非常勤講師(1997 年 4 月～1999 年 3 月) 茨城大学人文学部助教授(1994 年 4 月～) 国立インドネシア大学政治社会学部国際関係学科客員講師(1993 年 2 月～1994 年 2 月) 早稲田大学社会科学研究所インドネシア部会研究協力者(1988 年 4 月～1992 年 3 月)
専門分野	地域研究 東アジア国際関係史
教育研究概要	授業は、ｱｼﾞｱ社会論、政治学担当。 研究分野は、ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ地域研究、ｱｼﾞｱ日本関係史、朝日関係史の研究。
	(キーワード)インドネシア、朝鮮・韓国、日本、国際関係、東アジア地域研究
所属学会	歴史学研究会 韓日民族問題学会 アジア･ヨーロッパ未来学会 茨城大学政経学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目)社会・国際系科目/グローバルスタディーズ【2Q】アジア学入門, グローバルスタディーズ, 社会と政治 (専門科目)アジア社会論Ⅰ/アジア社会論A, 専門ゼミナールA(アジア社会論)/専門ゼミナールC(アジア社会論), 専門ゼミナールB(アジア社会論)+専門ゼミナールD(アジア社会論), 卒業研究 (大学院科目)課題研究演習Ⅰ/アジア社会論研究Ⅰ, 課題研究演習Ⅱ, 地域研究・社会学基盤演習

平成 30 年度における研究業績

○ **著書・論文等**

1. [研究論文(大学・研究機関紀要)・単著] 金光男「官営から後藤経営下の高島炭坑に関する一考察」茨城大学全学教育機構論集、1、79-95(2018 年 03 月)

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ **学協会での役職**

1. アジア･ヨーロッパ未来学会, 学会誌『ユーラシア研究』政治・外交分科編集委員(2008 年 01 月～)

○ **地域協力活動**

1. 水戸市教育委員会[学外審議会・委員会等]「みと好文カレッジ運営審議会委員」(2018 年 06 月～2020 年 06 月)
2. 放送大学 2019 年度第1学期、面接授業、「アジア社会論」担当、2019 年 4 月 20 日～4 月 21 日(8 時限)

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1.「全学教育機構人事委員会」 委員

2.「大学院専門部会」 委員

3.「社会と生活部会」 部会長

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1.「グローバル化と人間社会」部会長

共通教育部門	氏名 Frederick Allan Shannon

職名	准教授
学位	博士［クイーンズランド大学］ 修士［サザン・クイーンズランド大学］ 学部［サイモンフレーザー大学］ ケンブリッジ大学 英語教授法資格［ケンブリッジ大学］
学歴	クイーンズランド大学大学院 教育学部 博士課程 教育（クイーンズランド大学）［2008 年 01 月修了］ サザン・クイーンズランド大学大学院 教育学部 修士課程 言語学（サザン・クイーンズランド大学）［2004 年 07 月修了］ サイモンフレーザー大学 犯罪学部 犯罪学部（カナダ）［1996 年 07 月卒業］
職歴	九州大学（2010 年 10 月～2012 年 3 月）
専門分野	応用言語学
教育研究概要	（研究経歴） 私はこれまで数年間日本の大学レベルで外国語としての英語（EFL）を教えてまいりました。私の授業を通して学生たちが新しい言葉を学んだり、これまで知らなかったことを理解したりしてくれることに非常に喜びとやりがいを感じております。私は教員としてのキャリアの早期から、TESOL の学術分野と応用言語学について学び、教えることに魅力を感じてきました。また、学生たちの語学力を伸ばすために彼らをサポートできることに喜びを感じております。 よりよい英語教師となることができるように、私は TESOL／応用言語学、教育学の分野で学位を取得しました。私は博士課程で英語専攻以外の学生を対象としたリスニング能力に重点を置いた語学教育について研究を行いました。応用言語学修士課程では EFL 学習者による言語習得方略の使用について研究しました。また、ケンブリッジの CELTA（Certificate of English Language Teaching to Adults）も取得しております。私は自分のキャリアを開発する決意をして、語学教育に関するスキルと知識の向上に努めてまいりました。日本で教える外国人教師の中でも英語教育の博士号を保持している人は非常に限られており、TESOL 分野における私の学術的背景によって、大学の課程に積極的な貢献ができると信じております。 さらに、私は大学レベルでの豊富な指導経験があります。学部および大学院の英語専攻と非英語専攻の学生たちに対して英語関連の指導を行ってまいりました。これまでに教えたことのあるコースとしては、(1) プレゼンテーションスキル、(2) アカデミックライティング、(3) TOEIC、(4) TEOFL、(5) リスニングスキル、(6) ショートフィクション（詩および短編小説）、(7) 4 スキル会話クラスなどがあります。加えて、大学のほか、短期大学、高等学校、民間の語学学校、企業（NEC、トヨタ、マイクロソフトなど）での指導経験も豊富です。 また、学部教員陣容の一員として、研究および学術活動にも参加してまいりました。これまでの大学および学科では広報活動にも積極的に参加し、たとえば学生やスタッフが彼らの英語を練習し、フィードバックを得る機会である「English Corner」というミーティングを毎週開催したり、大学院生向けに「Writing Clinic」を毎週行い、ライティングの支援をしたりした経験があります。また、大学の体育祭やスピーチコンテスト、寸劇コンテストなどにも参加しました。また、通常の職員会議等にも出席し、英語専攻以外の学生向けのカリキュラム開発や教材の選択なども行いました。そして、【大学入試業務】の支援も行ってきました。私は日本語で学生やスタッフとコミュニケーションをとったり、一般的な業務を行ったりすることができます。このような理由から、私は大学での英語教員の職に適していると信じております。

	(キーワード)ナチュラルアプローチー，クラッシェン, SLA モデル，情意フィルター、インタラクション仮説、インプット仮説、生得理論、言語習得装置、モニターモデル、ナチュラルアプローチ，相互交流仮説、インプット仮説、生得理論、意味交渉、最近接発達の領域（ZPD）
所属学会	
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目)Advanced English ⅡA，Advanced English ⅡB，Advanced English ⅢA, Advanced English ⅢB, Integrated English ⅡA， Integrated English ⅡB, English For Socializing (専門科目)専門演習Ⅰ(Language Learning)，English Seminar for Intercultural Communication Ⅰ，専門演習Ⅱ(Language Learning)，American Ways：Exploring American Life+英語圏の文化と社会Ⅱ，Canadian Studies

共通教育部門	氏名 小林 邦彦

職名	教授
学位	修士（教育学）［茨城大学］
学歴	
職歴	
専門分野	外国語教育
教育研究概要	
	（キーワード）異文化間コミュニケーション理論を外国語教育の入門期から体系的に導入するための「異文化間コミュニケーション・シラバス設計」とその教授法の研究。英語教授法に関して，「コミュニカティブ・アプローチ」を機軸として「動機付け理論」，「タスク理論」，「学習ストラテジー」に関する「認知学習理論」，「学習者中心の教授法」等の研究をはじめ，CALL 等「教
所属学会	全国語学教育学会 全国英語教育学会 大学英語教育学会 関東甲信越英語教育学会
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）Integrated English ⅡA，Advanced English IA，Integrated English ⅡA，Integrated English ⅡB，Advanced English IB，Integrated English ⅡB，総合英語（プレレベル3）

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など：

○ 地域協力活動

1. ［地域貢献事業］「教員免許状更新講習 講師」（2011 年 08 月～）
2. ［地域貢献事業］「教員免許状更新講習 講師」（2010 年 08 月～）
3. 「教員免許状更新講習 講師」（2009 年 12 月～）
4. ［地域貢献事業］「教員免許状更新講習 講師」（2009 年 08 月～）
5. 「国立茨城工業高等専門学校 英語スピーチコンテスト審査委員長」（2009 年 07 月～）

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

1. 「CALL 教室専門部会」［委員］（2010 年 04 月～）
2. 「学生交流事業実施委員」［日米文化交流委員］（2010 年 04 月～）

○ 全学的委員会の業務

「プラクティカルイングリッシュ専門部会」［部会長補佐］（2018 年 08 月～）

「全学教育機構 GEP 専門部会」［部会長］（2018 年 04 月～2020 年 03 月）

「全学教育機構 共通教育部門」［部門長補佐］（2018 年 04 月～2020 年 03 月）

「学生交流事業実施委員会」［日米文化交流委員］（2010 年 04 月～）

「総合英語教育専門部会　」[委員]（2003 年 04 月～）
「アドミッションセンター関連業務」（2017 年 4 月～）

共通教育部門	氏名　小西 康文

職名	准教授
学位	博士（物理学）［京都産業大学］
学歴	京都産業大学大学院 理学研究科 博士後期課程 物理学専攻［2010 年 03 月修了］
職歴	茨城大学全学教育機構准教授（2018 年 2 月～） 茨城大学大学教育センター准教授（2015 年 2 月～2018 年 1 月） 埼玉大学大学院理工学研究科研究支援者（2011 年 4 月～2015 年 1 月） 京都産業大学益川塾自然科学系研究員（2010 年 4 月～2011 年 3 月）
専門分野	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
教育研究概要	
	（キーワード）
所属学会	日本物理学会
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）力と運動，微積分学，微積分学入門【1Q】，微積分学基礎【2Q】，物質と生命，自然科学の概観+物質と生命

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. 小西 康文, Yasufumi KONISHI「数学科目で利用したデジタル教科書に関する一年目の結果」，茨城大学全学教育機構論集. 大学教育研究, 2, 91-98（2019 年 03 月）

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 兼業・兼職

1. ［兼業］ 一般財団法人 理数教育研究所(Rimse)・Rimse 東京懇談会内調査研究部会研究員（2018 年 07 月～2019 年 03 月）

○ 学外教育

1. ［公開講座］「日立市・日立地区産業支援センター・茨城大学連携公開講座 「AI・データサイエンス入門」, , ,
2. ［出前授業］「茨大 1day キャンパス in 土浦二高・AI・データサイエンス入門」, , ,

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

1. 【大学入試業務】（2018 年 11 月）
2. 【大学入試業務】（2018 年 01 月）

3.「全学教育機構人事委員」(2017 年 11 月～2019 年 03 月)

4.「全学教育機構点検評価委員」(2017 年 05 月～)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. [プラクティカル・イングリッシュのクラス分け補助](2017 年 04 月～)

業務内容:名簿および一覧表の作成

2. [微積分学の統一授業の運営等](2017 年 04 月～)

業務内容:取りまとめ

3. [自然・環境・科学部会の FD の準備と実施](2017 年 04 月～)

業務内容:日程調整、司会進行など

4. [TOEIC 一斉テストに関する業務](2015 年 07 月～)

業務内容:集計および解析

5. [基礎教育科目のアンケートの集計](2015 年 02 月～2018 年 08 月)

業務内容:取りまとめ

共通教育部門	氏名 菊池 武

職名	准教授
学位	英語教授法修士[コロンビア大学大学院ティーチャーズカレッジ]
学歴	コロンビア大学大学院 ティーチャーズカレッジ 修士課程 英語教授法修士課程[2003 年 02 月卒業] 立教大学 文学部 英米文学科[1984 年 03 月卒業]
職歴	いわき明星大学人文学部(2011 年 4 月～2015 年 3 月) 教養学部(2015 年 4 月～2018 年 3 月)准教授(2011 年 4 月～2018 年 3 月) 獨協大学外国語学部英語学科(2007 年 4 月～2008 年 3 月) 法学部総合政策学科(2008 年 4 月～2011 年 3 月)特任講師(2007 年 4 月～2011 年 3 月) 獨協大学非常勤講師(2006 年 4 月～2007 年 3 月) 茨城大学非常勤講師(2003 年 4 月～2011 年 3 月) いわき明星大学非常勤講師(2003 年 10 月～2011 年 3 月) 茨城県教育委員会教諭(1984 年 4 月～2003 年 3 月)
専門分野	外国語教育
教育研究概要	
	(キーワード)英語教育、第二言語習得研究、発音指導
所属学会	大学英語教育学会 全国語学教育学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目)Integrated English ⅡA, Advanced English ⅡA, Integrated English ⅡB, Advanced English ⅡB

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ **兼業・兼職**

1. [非常勤講師] 獨協大学・(2011 年 04 月～), いわき明星大学 (２９１９年より医療創生大学)・(2019 年 04 月～)

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ **委員会・入試などの業務(機構)**

→【大学入試業務】(2019 年 1 月～2 月)

○ **全学的委員会の業務**

「全学教育機構 共通教育部門 プラクティカル・イングリッシュ部会」[部会長](2018 年 04 月～08 月[部会長補佐]、[部会長]2018 年 08 月～)

「全学教育機構 GEP 専門部会」[委員](2018 年 04 月～)

「全学教育機構 共通教育部門」[委員](2018 年 04 月～)

○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等

プラクティカル・イングリッシュ部会　AEII コースコーディネーター（2018 年 4 月～8 月）、TOEIC 実施委員長

プラクティカル・イングリッシュ部会［部会長］（2018 年 08 月～）

英語教育検討タスクフォース［委員］（2018 年 10 月～）

○ その他の校務

1. ［全学教育機構　学術委員会　委員］（2018 年 04 月～）

共通教育部門	氏名 SCHMIDT=FAJLIK Ronald

職名	准教授
学位	D.Ed.[University of South Africa] M.Ed.[University of Manchester] B.Ed.[University of Toronto] B.F.A.[York University (Toronto)]
学歴	University of South Africa Didactics 博士課程(South Africa)[2014 年 10 月] University of Manchester English Language Teaching 修士課程 Master of Education in English Language Teaching (M.Ed. ELT).(England)[2000 年修了] University of Toronto 教育学部(Canada)[1993 年卒業] York University 芸術工学部(Canada)[1991 年卒業] Humber College Audio-Visual Production, Television[1986 年卒業]
職歴	4/05-present Ibaraki University. Full-time tenured Associate Professor. 10/00-3/05 Josai International University. Full-time Lecturer. 4/97-3/99 Kyoei Senior High School. English teacher. 4/95-3/97 Honjo Daiichi Senior High School. English teacher. 3/94-4/95 Misugi Junior High School. Assistant English teacher.
専門分野	English language teaching pedagogy, intercultural communication
教育研究概要	Mindfulness in language teaching. Intercultural communication Interpersonal competence. 言語学習におけるマインドフルネス. 異文化コミュニケーション 個人教育 視覚文化 コンピュータ支援型言語学習 英語教育
所属学会	
受賞歴	Best Presentation of Chiba JALT 2003(2004)
担当科目	(教養科目)Integrated English IIA, Integrated English IIB, Academic English IIA (専門科目)ESIC II, Basic Media English, 基礎演習, 専門演習 I(Language Learning), 英語圏の文化と社会, ESIC III, 専門演習 II(Language Learning), 専門演習専門演習 III(Language Learning, 専門演習 IV, 卒業研究.

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

Gathered data and conducted research regarding mindfulness to reduce anxiety when reading in a foreign language.

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など

English speech contest judge at Kosen High School in Hitachinaka. Assisted junior high school students in preparing for the ‘Interactive English’ conversation contest.

平成 30 年度における国際交流活動

My Introduction to Comenius University in 平成 29 led to a finalized partnership agreement with Ibaraki University in 平成 30.

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

→【 Work for University entrance exam 】

○ 全学的委員会の業務

○ 機構教員としての全学的活動等

→Provided English conversation practice sessions two hours a week for students (English conversation training).

共通教育部門	氏名 清水 恵美子

職名	准教授
学位	修士(学術)[茨城大学] 博士(学術)[お茶の水女子大学]
学歴	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 博士後期課程 国際日本学専攻[2008 年修了] 茨城大学大学院 人文科学研究科 修士課程 文化構造専攻[2003 年修了]
職歴	茨城大学全学教育機構准教授(2018 年 4 月～) 茨城大学五浦美術文化研究所所員(2015 年 11 月～) 茨城大学社会連携センター准教授(2015 年 2 月～2018 年 3 月) お茶の水女子大学生活科学部学部教育研究協力員(2013 年～2015 年) お茶の水女子大学お茶大アカデミック・プロダクション特任リサーチフェロー(2011 年～2012 年) 国士舘大学文学部非常勤講師(2010 年～2015 年) 芝浦工業大学工学部非常勤講師(2010 年～2015 年) お茶の水女子大学生活科学部非常勤講師(2010 年～2015 年) お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター客員研究員(2009 年～) お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科研究院研究員(2008 年～2011 年) 茨城大学人文学部・大学共通センター非常勤講師(2006 年～2015 年)
専門分野	美術史 文学一般(比較文学比較文化) 日本史(近現代史)
教育研究概要	岡倉天心に関する研究(岡倉の思想と生涯の活動について、晩年の五浦・ボストン往復時代を中心に、美術史、芸術思想史、比較文学比較文化、文化交流史、近代日本史など多角的な領域から研究)
	(キーワード)岡倉天心(覚三) 近代美術史 比較文学比較文化 文化交流史 芸術思想史 地域志向教育 アクティブ・ラーニング PBL
所属学会	日本フェノロサ学会 文化資源学会 日本比較文学会 明治維新史学会 明治美術学会
受賞歴	いばらきデザインセレクション 2017 知事選定(2017) 文化庁 平成 24 年度(第 63 回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(評論等部門)(2013)
担当科目	(教養科目)茨城学, 地域志向系科目【茨城学】/茨城学 (基盤教育科目)茨城学 (全学共通科目)5 学部混合地域 PBL I, 5 学部混合地域 PBL II, 5 学部混合地域 PBL IA, 5 学部混合地域 PBL IIA

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・共著]清水恵美子、渡辺啓己、菊地章雄、今村健太郎「大学 COC 事業における『茨城学』の取り組みと成果」,『茨城大学全学教育機構論集. 大学教育研究』, 2, 23-42(2019 年 03 月)

2. [(MISC)総説・解説(その他)・単著 【依頼/招待】]清水恵美子「〈ボストンにおける岡倉覚三〉『東西の調和』その思想と実践」,『天心報』, 27, 1-13(2018 年 11 月 30 日)

3. [(MISC)総説・解説(その他)・単著 【依頼/招待】]清水恵美子「五浦から世界へ 岡倉覚三(天心)と弟由三郎」,『日本ナショナルトラスト 報』, 528, 2-4(2018 年 11 月 01 日)

4. [(MISC)研究発表要旨(国際会議)・単著 【依頼/招待】]Emiko Shimizu"Okakura-Kakuzoin Cultural Exchange between India and Japan: Dialogue with Swami Vivekananda and rabindranath Tagore", Rethinking Cultural Heritage: Indo-Japanese Dialogue in a Globalising World Order, 13-14(2018 年 08 月 16 日)

5. [(MISC)総説・解説(その他)・単著 【依頼/招待】]清水恵美子「西洋と東洋を超えて:岡倉天心」,『nippon. com』, (2018 年 08 月 02 日)

6. [(MISC)速報, 短報, 研究ノート等(学術雑誌)・単著 【依頼/招待】]清水恵美子「私にとって文化資源学とは何か」,『文化資源学』, 16, 96-97(2018 年 06 月 30 日)

○ 学会発表等

1. [公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・国内会議(単独)] 清水 恵美子「茨城大学 COC 地域志向教育プログラムの取り組みと今後」山梨大学 COC セミナー(山梨大学甲府キャンパス)[2019 年 01 月 16 日]

2. [口頭発表(招待・特別)・国内会議(単独)] 「木村武山の足跡—五浦と笠間の時代一」明治 150 年記念事業歴史講演会(笠間市(かさま歴史交流井筒屋))[2018 年 11 月 23 日]

3. [公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・国内会議(単独)] 清水恵美子「飯村丈三郎と五浦日本美術院」シンポジウム「飯村丈三郎」2018 in 下妻(下妻市図書館(映像ホール))[2018 年 11 月 11 日]

4. [口頭発表(招待・特別)・国内会議(単独)] 清水恵美子「ボストンにおける岡倉覚三」岡倉天心市民研究会(岡倉天心横浜顕彰会)第 27 回研究会(横浜市開港記念会館)[2018 年 10 月 20 日]

5. [口頭発表(招待・特別)・国内会議(単独)] 清水恵美子「東京国立博物館所蔵 岡倉覚三消息」江戸千家 天心忌茶会(江戸千家教場)[2018 年 09 月 02 日]

6. [口頭発表(招待・特別)・国際会議(単独)] Emiko Shimizu "Okakura-Kakuzo in Cultural Exchange between India and Japan: Dialogue with Swami Vivekananda and Rabindranath Tagore" Rethinking Cultural Heritage: Indo-Japanese Dialogue in a Globalising World Order(India International Centre)[2018 年 08 月 16 日]

7. [公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・国内会議(共同)] 「岡倉天心 五浦から世界へ」土曜アカデミー・岡倉天心セミナー vol.4 (茨城大学図書館本館ライブラリーホール)[2018 年 07 月 14 日]

8. [口頭発表(招待・特別)・国内会議(単独)] 清水恵美子「岡倉天心の五浦時代」多賀工業会水戸勝田支部第 42 回総会講演会(三の丸ホテル)[2018 年 06 月 17 日]

9. [公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等・国内会議(単独)] 清水恵美子「飯村丈三郎と横山大観」飯村丈三郎の業績と芸術・文化の発展(藝文学苑 水戸教室)[2018 年 05 月 26 日]

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 行政機関等での委員就任

1.「ひたちなか市産業活性化戦略会議」ひたちなか商工会議所[委員長]

○ 学協会での役職

1. ひたちなか市産業活性化戦略会議, 委員長(2018 年 03 月～)

○ 講演会・シンポジウム

1.「明治 150 記念事業歴史講演会「木村武山の足跡―五浦と笠間の時代―」(国内)」, 笠間市教育委員会(笠間歴史交流館井筒屋)[招待講演](2018 年 11 月)
2.「シンポジウム[飯村丈三郎]2018 in 下妻―彼がいたから現在がある―」, 飯村丈三郎研究会(茨城県下妻市)[招待講演,パネリスト](2018 年 11 月)
3.「岡倉天心セミナーvol.5 世界の"OKAKURA"誕生 岡倉の最初の英語著作と日本趣味」(国内)」, 茨城大学五浦美術文化研究所(茨城大学図書館)[司会・議長・コンビーナ・コーディネータ](2018 年 11 月)
4.「第 3 回石岡市民の日記念行事 「石岡市ふるさと学習サミット ～子どもたちが見た『石岡の魅力と未来』を伝えます～」(国内)」, 石岡市教育委員会(石岡市民会館大ホール)[司会・議長・コンビーナ・コーディネータ](2018 年 10 月)
5.「多賀工業会水戸勝田支部第 42 回総会 講演会(国内)」, 多賀工業会水戸勝田支部総会(水戸市 三の丸ホテル)[招待講演](2018 年 06 月)

○ 地域協力活動

1. 笠間市教育委員会[地域貢献事業]「明治 150 記念事業歴史講演会「木村武山の足跡―五浦と笠間の時代―」『明治 150 記念事業歴史講演会』(2018 年 11 月)
2. 茨城大学図書館[地域貢献事業]「岡倉天心(覚三)の遺産展 vol.2 「五浦から世界へ 旅する岡倉の眼差し」(2018 年 11 月)
3. 茨城大学図書館[地域貢献事業]「岡倉天心セミナーvol.5 世界の"OKAKURA"誕生 岡倉の最初の英語著作と日本趣味」『土曜アカデミー 岡倉天心セミナーvol.5』(2018 年 11 月)
4. 石岡市教育委員会[地域貢献事業]「第 3 回石岡市民の日 記念行事「石岡市ふるさと学習サミット～子どもたちが見た『石岡の魅力と未来』を伝えます～」『「石岡市ふるさと学習サミット 子どもたちが見た『石岡の魅力と未来』を伝えます」』(2018 年 05 月～2018 年 10 月)
5. ひたちなか商工会議所[学外審議会・委員会等]「ひたちなか市産業活性化戦略会議 委員長」(2017 年 03 月～)

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費]科学研究費補助金(基盤研究(C))**(代表)**「世紀転換期から戦後の美術交流における新納忠之介の文化財保護活動に関する研究」, 3380 千円 (2018 年 04 月～2021 年 03 月)
2. [科研費]科学研究費補助金(基盤研究(C))**(代表)**「世紀転換期における『日本』の語り―岡倉覚三と岡倉由三郎を中心とした比較文学的研究」, 2730 千円 (2015 年 09 月～2018 年 03 月)

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 全学的委員会の業務

「COC プラス教育プログラム開発委員会」[委員](2018 年 04 月～)
「五浦美術文化研究所」[運営委員](2018 年 04 月～)
「全学教育機構 COC 地域志向教育プログラム部会」[部会長](2017 年 04 月～)
「COC 地域志向教育プログラム委員会」[委員長](2017 年 04 月～)
「COC 統括機構委員会」[委員](2015 年 02 月～)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. [COC 統括機構(COC プラス)](2018 年 04 月～)

業務内容:COC 統括委員会委員、教育プログラム開発委員会委員、COC プラス授業推進 WG

2. [全学教育機構](2017 年 04 月～)

業務内容:共通教育部会　地域志向教育プログラム部会長(2019 年 3 月まで COC 地域志向教育プログラム部会長)

初年次教育部会(2019 年 3 月まで)

3. [五浦美術文化研究所](2016 年 02 月～)

業務内容:所員、運営委員(2018 年 4 月～)

4. [COC 統括機構(COC)](2015 年 02 月～)

業務内容:COC 統括委員会委員、COC 地域志向教育プログラム委員会委員長(2017 年 4 月～2019 年 3 月)

共通教育部門	氏名 佐藤 伸也

職名	准教授
学位	DOCTOR of PHILOSOPHY［サセックス大学］
学歴	サセックス大学大学院 エンジニアリング・インフォマティクス研究科 博士課程 インフォマティクス専攻［2015 年 05 月修了］ 東京理科大学大学院 理工学研究科 博士課程 情報科学専攻［2002 年 03 月単位取得満期退学］ 東京理科大学大学院 理工学研究科 修士課程 情報科学専攻［1998 年 03 月修了］ 東京理科大学 理工学部 情報科学科［1996 年 03 月卒業］
職歴	茨城大学全学教育機構准教授（2017 年 4 月～） 茨城大学大学教育センター准教授（2015 年 9 月～2017 年 3 月） サセックス大学エンジニアリング・インフォマティクス研究科、インフォマティクス専攻准チューター（2014 年 2 月～2014 年 4 月） 姫路獨協大学経済情報学部准教授（法改正による職名変更）（2007 年 4 月～2012 年 3 月） 姫路獨協大学大学院経済情報研究科准教授（法改正による職名変更）（2007 年 4 月～2012 年 3 月） ロンドン大学キングスカレッジコンピュータサイエンス学部客員研究員（2006 年 9 月～2007 年 8 月） 姫路獨協大学大学院経済情報研究科助教授（2005 年 4 月～2007 年 3 月） 姫路獨協大学経済情報学部助教授（2004 年 4 月～2007 年 3 月） 姫路獨協大学経済情報学部専任講師（2002 年 4 月～2004 年 3 月）
専門分野	情報学基礎理論 計算機システム ソフトウェア
教育研究概要	
	（キーワード）インタラクションネット プログラミング言語 形式手法 項（グラフ）書き換え系
所属学会	Association for Computing Machinery
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）情報リテラシー，情報処理概論，文明・技術系科目+環境と人間

平成 30 年度における研究業績

○ **著書・論文等**

1. ［研究論文（大学，研究機関紀要）・単著］佐藤 伸也「授業支援システム RENANDI の利用状況報告」，茨城大学全学教育機構論集．大学教育研究，**2**，85-90（2019 年 03 月）

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など：

1.［学協会活動・研究活動］ セミナー「Keras/Python3 で学ぶディープラーニングによる時系列データ解析入門」【導入編】，講師：卯木輝彦（株式会社フォトロン 研究開発センター長）、佐藤伸也，学習分析学会（2018 年 12 月 15 日）

2.[学協会活動・研究活動] セミナー「Keras/Python3 で学ぶディープラーニングによる時系列データ解析入門」【実践編】, 講師：卯木輝彦（株式会社フォトロン 研究開発センター長）、佐藤伸也, 学習分析学会（2019 年 2 月 2 日）

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

1.「全学教育機構 共通教育部門 AI・データサイエンス専門部会」（2018 年 04 月～）

2.「全学教育機構 総合教育企画部門」（2018 年 04 月～）

3.「全学教育機構ウェブ TF」（2018 年 02 月～）

4.「全学教育機構 共通教育部門 初年次教育部会（情報担当）」（2017 年 04 月～）

5.「全学教育機構 点検評価委員会」（2017 年 04 月～2019 年 03 月）

○ 全学的委員会の業務

「教務情報ポータルシステム専門委員会」（2017 年 04 月～）

「情報環境整備専門委員会」（2015 年 09 月～）

○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等

1. [部局技術責任者]（2017 年 04 月～）

2. [ALC 用サーバー管理]（2016 年 09 月～）

3. [RENANDI 管理運用]（2016 年 09 月～2018 年 03 月）

○ その他の校務

1. [基盤・教養科目事前申告抽選作業]（2017 年 02 月～）

2. [英語コミュニケーショントレーニング予約サイトの作成・管理・運用]（2016 年 10 月～）

3. [IT 基盤センター 教育 IT 推進部門 部門長]（2016 年 09 月～）

4. [基盤・教養科目学生アンケート・教員自己点検アンケート集計]（2016 年 09 月～）

共通教育部門	氏名 上田 敦子

職名	准教授
学位	修士（国際コミュニケーション）［青山学院大学］
学歴	青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科 修士課程 国際コミュニケーション［2001 年修了］ 青山学院大学 文学部 英米文学科［1985 年卒業］
職歴	株式会社公文教育研究会［1985 年～1998 年］ 茨城大学［2003 年～現在に至る］ 常磐大学（非常勤講師として）［1985 年～1998 年］ 放送大学（非常勤講師として）［2015 年、2018 年～］
専門分野	外国語教育
教育研究概要	●Accuracy が重要視されがちな日本の英語教育の中で、文法的な正確さだけでなく、Fluency を高める英語教育の研究と実践。多読および多聴を用いた授業の研究。 ●学習スタイル、learning intelligence についての研究、授業への応用 ●生涯学習としての英語教育、英語学習
	（キーワード） 多読、多聴、生涯学習
所属学会	日本多読学会 全国語学教育学会 「言語と人間」研究会 （以前の名称：横浜「言語と人間」研究会）
受賞歴	茨城大学推奨授業（2005）
担当科目	（教養科目）Integrated English ⅡA, Advanced English ⅡA, Integrated English ⅡA, Integrated English ⅡB, Advanced English ⅡB, Integrated English ⅡB, 総合英語（レベル3）

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. ［研究論文（学術雑誌）・共著］佐々木, 友美 上田, 敦子「学習者の Reading Anxiety に関する一考察―Pleasure Reading 導入にあたっての課題―」, 茨城大学全学教育機構論集. 大学教育研究 no.2 p.65 -74, **2**, 65-74（2019 年 03 月 01 日）

○ 学会発表等

1. ［口頭発表（一般）・国際会議（共同）］ Nomura Sachiyo and Ueda Atsuko "Effects of Reciprocal Teaching "Forming Questions"" Asia TEFL（University of Macau Macau, China）［2018 年 06 月 27 日］

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 兼業・兼職

1. ［非常勤講師］ 放送大学・非常勤講師, 2（時間/月）（2013 年 10 月～）
2. ［非常勤講師］ 常磐大学・非常勤講師, 2（時間/月）（2007 年 04 月～）

○ 地域協力活動

1. [その他公的社会活動]「公開講座　多読を楽しむ」(2018 年 04 月～)

2. [その他公的社会活動]「放送大学英会話サークル　指導」(2016 年 04 月～)

3. 茨城大学地域連携センター(2018 年～)

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1.「人事採用委員」(2018 年～)

2.「施設・予算委員」(2017 年 04 月～)

○ その他の校務

1. [PE クラス編成委員長](2018 年～)

2. [PE 教育支援委員](2018 年 04 月～)

共通教育部門	氏名 山崎 大

職名	准教授
学位	修士(理学)[東京大学] 博士(理学)[東京大学]
学歴	東京大学大学院 理学系研究科 博士課程 天文学専攻[2007 年 03 月修了]
職歴	2004 年 4 月～2006 年 3 月 国立天文台リサーチ・アシスタント 2006 年 4 月～2007 年 3 月 日本学術振興会特別研究員(DC2) 2007 年 4 月～2008 年 3 月 日本学術振興会特別研究員(PD) 2008 年 4 月～2009 年 3 月 国立天文台研究支援員 2009 年 4 月～2011 年 3 月 Postdoctoral Fellow, Academia Sinica, Institute of Astronomy and Astrophysics (Republic of China) 2011 年 4 月～2014 年 3 月 国立天文台研究員 2014 年 4 月～2015 年 2 月 千葉工業大学学習支援センター学習支援員（専任講師相当） 2014 年 4 月～現在に至る 国立天文台特別客員研究員 2015 年 2 月～2017 年 3 月 茨城大学 大学教育センター 准教授 2017 年 4 月～現在に至る 茨城大学 全学教育機構 准教授（所属部署の名称変更）
専門分野	天文学 素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
教育研究概要	1.「研究」 初期宇宙の物理過程に対する原初磁場の影響を研究。特に、相対論的宇宙論と電磁流体力学に対応した、原初磁場の空間分布を数値的に計算するプログラムを開発し、統計的な手法を駆使し、宇宙背景放射と物質密度場に対する原初磁場の影響に関する研究の発展に貢献してきた。最近は、観測事実をもとに理論モデルを検証する観測的宇宙論の手法により、原初磁場を考慮したビッグバン元素合成やダークマター候補となる X 粒子探索等の素粒子論・原子核理論に関連する研究も行っている 2.「教育」 物理学と数学の授業について、その成績と授業出席について統計的に調査し、その結果を反映した基礎教育改善のための授業計画の立案、教材・板書ノート・教科書作成、および試験問題作成を行う。また、学習相談の専用窓口で、多くの学生の学習相談に対応しつつ、より多くの学生が気兼ねなく学習相談できる環境の改善を推進してきた。
	(キーワード)宇宙論 宇宙背景放射 原初磁場 大規模構造形成 ビッグバン元素合成
所属学会	Japan SKA Consortium 日本天文学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目)力と運動, 微積分学, 力と運動, 力学入門【1Q】, 力学基礎【2Q】, 自然科学の概観+物質と生命

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. ［研究論文（大学，研究機関紀要）・単著］山崎大「物理学基礎教育におけるグループワークの学習効果の検証と課題」，茨城大学全学教育機構論集．大学教育研究，**2**，57-64（2019 年 03 月）

2. ［研究論文（国際会議プロシーディングス）・単著］Dai G. Yamazaki"CMB weak lensing with the primordial magnetic field", Proceedings of the IAU Focus Meeting 8: New Insights in Extragalactic Magnetic Fields, XXXth IAU General Assembly,（2018 年 11 月）

3. ［研究論文（学術雑誌）・単著【査読あり】］"Impact of a primordial magnetic field on cosmic microwave background B modes with weak lensing", Physical Review D, **97**, 103525, 103525-1-103525-8（2018 年 05 月 24 日）

○ 学会発表等

1. ［口頭発表（一般）・国内会議（単独）］ 山崎 大「宇宙論的観測による原初磁場制限の現状」第7回観測的宇宙論ワークショップ［2018 年 11 月 13 日］

2. ［口頭発表（一般）・国内会議（単独）］ 山崎 大「原初磁場の制限における問題点」日本天文学会 2018 年秋季年会［2018 年 09 月］

3. ［口頭発表（一般）・国際会議（単独）］ Dai G. Yamazaki "CMB weak lensing with the primordial magnetic field" IAU Focus Meeting FM8: New Insights in Extragalactic Magnetic Fields（Vienna, August）［2018 年 08 月 29 日］

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 兼業・兼職

1. ［その他］ 国立天文台・特別客員研究員（2014 年 04 月～）

○ 学外教育

1. ［公開講座］「AI・データサイエンス入門」, , ,

○ 地域協力活動

1. 国立大学教養教育実施組織［その他公的社会活動］「平成 30 年度国立大学教養教育実施組織会議 事例報告 「茨城大学 "科学の基礎 質問室"」『平成 30 年度国立大学教養教育実施組織会議』（2018 年 06 月）

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. ［科研費］若手研究(B)**(代表)**「原初磁場を考慮した複合ビッグバン元素合成モデルの展開」, 416 万円 （2016 年 04 月 01 日～2019 年 03 月 31 日）

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

1.「全学教育機構 共通教育部 自然・環境・科学部会」［部会長］（2017 年 04 月～）

2.「全学教育機構 学術委員会」［委員］（2017 年 04 月～）

3.【大学入試業務】（2018 年 11 月）

4.「全学教育機構 共通教育部 AI データサイエンス部会」［委員］（2018 年 04 月～2019 年 03 月）

5.【大学入試業務】(2018 年 01 月)

○ **その他の校務**

1. [茨城大学 力学教科書編集委員会 委員長](2015 年 02 月～)

業務内容:統一授業「力と運動」で使用する教科書の作成と編集のための委員会

2. [統一授業「力と運動」運営業務](2015 年 02 月～)

業務内容:統一授業「力と運動」(7 クラス分) の e ラーニング作成、期末試験作成補助、試験採点補助、成績統計作業、授業ノート作成、授業スライド作成、中間模擬試験作成と採点。

3. [力学の基礎テスト作成・採点・クラス分け](2015 年 02 月～)

業務内容:統一授業「力と運動」のクラス分けのための力学の基礎テスト作成、採点、クラス分け.

4. [茨城大学数理解析への「微分積分の基礎」編集委員会 委員](2015 年 02 月～)

業務内容:統一授業「微積分学」で使用する教科書の作成と編集のための委員会

5. [統一授業「微積分学」運営業務](2015 年 02 月～)

業務内容:統一授業「微積分学」(7 クラス分)の e ラーニング作成補助、期末試験作成補助、試験採点補助、成績統計作業補助。

6. [微分積分の基礎テスト作成協力](2015 年 02 月～)

業務内容:微分積分の基礎テスト作成協力 統一授業「微積分学」のクラス分けのための基礎テスト作成協力

共通教育部門	氏名　大森 真

職名	講師
学位	第二言語研究 修士[ハワイ大学 マノア校]
学歴	ハワイ大学 マノア校大学院 第二言語研究学科 修士課程 第二言語研究(アメリカ合衆国)[2006 年 12 月修了] ハワイ大学 マノア校大学院 第二言語研究学科 博士課程 第二言語研究(アメリカ合衆国)[(年不明)その他]
職歴	国立大学法人 茨城大学 全学教育機構 英語専任講師(常勤)(2017 年 4 月～) 国立大学法人 茨城大学 大学教育センター 英語専任講師(常勤)(2014 年 4 月～2017 年 3 月) 非営利団体 アジア太平洋交流センター(Center for Asia Pacific Exchange; ハワイ大学と提携し、ハワイ州政府に帰属する教育系非営利団体) 講師兼カリキュラム専門家(2011 年 6 月～2012 年 8 月) ハワイ大学マノア校 第二言語研究学科 非常勤講師 [担当講座] 第二言語習得論 第二言語教授法 第二言語教授法一読解と作文 第二言語教授法一聴解と会話(2007 年 8 月～2012 年 5 月) ハワイ大学マノア校 English Language Institute リスニング・スピーキングセクション主任講師(Lead Teacher)(非常勤)(2007 年 1 月～2007 年 5 月) ハワイ大学マノア校 English Language Institute 非常勤講師 リスニング・スピーキングセクション(中級・上級)担当(学部生・大学院生対象)(2006 年 1 月～2006 年 12 月)
専門分野	英語教育
教育研究概要	[教育] Integrated English III-A, III-B コーディネーターとして、H29 年度からの新コースである 2 コースのカリキュラム、教材等作成、並びに運営を行った。 Advanced English プランニング・ディレクターとして、H30 年度開講の Advanced English III-A, III-B のカリキュラム、教材等作成を行った。 PE 部会 FD 委員として、FD の企画運営を行った。H29 年度の新しい試みとして、新人教員対象 FD、矢嶋教員を招いての学生支援 FD を実施した。後者は、部会内 FD と全体 FD の両方を実施した。 English Lounge(英語学習相談)担当として、主として Integrated English III-A, III-B 受講者の学修支援を行った。 [教育研究プロジェクト(Action Research Project)]「共通シラバス英語科目における質保証と学習支援への取り組み:パフォーマンス評価におけるルーブリック開発」 自身がコーディネーターとしてカリキュラム作成・運営し、かつ自らも教えている Integrated English III-A, III-B、並びに習熟度の異なる Integrated English II-A, II-B において、プレゼンテーションとエッセイの詳細なルーブリックの開発と学生への公表による学修への意識の変化を調査する。プロジェクトリーダーとして、全学教育機構上田教員、矢嶋教員と共同研究を進めている。 [研究プロジェクト]「生徒達の英語に上積みするのを助ける」:英会話交流授業の会話分析 「生徒達の英語に上積みするのを助ける」ことを目的とした英会話交流プログラムを会話分析の手法を用い

	て分析し、 1）会話パートナー達は、どのようにして「生徒達の英語に上積みするのを助け」ているのか。2）会話パートナー達は、各々違う手法で「生徒達の英語に上積みするのを助け」、生徒達に多様な会話体験や教育的体験を提供しているか。 の 2 点を明らかにする。
	（キーワード）（応用）会話分析、 成員性カテゴリー化分析、異文化間性の構築、英語教授法、ルーブリック
所属学会	一般社団法人 大学英語教育学会
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）Integrated English ⅢA, Advanced English ⅢA, Integrated English ⅢB, Advanced English ⅢB, 総合英語（レベル4）

平成 30 年度における研究業績

[教育研究プロジェクト(Action Research Project)]「共通シラバス英語科目における質保証と学習支援への取り組み：パフォーマンス評価におけるルーブリック開発」
自身がコーディネーターとしてカリキュラム作成・運営し、かつ自らも教えている Integrated English III-A, III-B、並びに習熟度の異なる Integrated English II-A, II-B において、プレゼンテーションとエッセイの詳細なルーブリックの開発と学生への公表による学修への意識の変化を調査する。プロジェクトリーダーとして、全学教育機構上田教員、矢嶋教員と共同研究を進めている。自身の担当する IE III-A, III-B では、本年度後期まで3学期間に渡りデータを収集した。来年度前学期には、データを分析し、論文を共同執筆する予定である。

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

1.「TOEIC 企画運営」[運営委員長]（2018 年 08 月～）
2. 「総合英語/PE クラス編成委員」[副委員長(2017-2018 前期)]（2014 年 04 月～）
3.「予算委員会(機構)」（2018 年～）
4.「PE 質保証 学生支援」[委員長]（2018 年前期）
5.【大学入試業務】（2017 年～）
6.「IE III コーディネーター」（2017 年 04 月～）
7.「英語学習相談」（2014 年 04 月～）

共通教育部門	氏名　鈴木 聡子

職名	講師
学位	博士（Ed.D）[Temple University, Japan Campus]　修士（M.Ed）[Temple University, Japan Campus]
学歴	Temple University, Japan Campus Graduate College of Education 修士課程 TESOL [2007 年修了] Temple University, Japan Campus Graduate College of Education 博士課程 Curriculum, Instruction, and Technology[2017 年修了]
職歴	青山学院大学非常勤講師（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 文教大学非常勤講師（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 日本大学非常勤講師（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 文教大学非常勤講師（2009 年 4 月～2016 年 3 月） テンプル大学ジャパンキャンパス生涯教育プログラム非常勤講師（2009 年 9 月～2011 年 4 月） 青山学院大学非常勤講師（2007 年 4 月～2016 年 3 月）
専門分野	外国語教育
教育研究概要	音声録音再生ソフトを用いた発音・リスニング・スピーキング指導とその効果の検証
	（キーワード）音読、シャドーイング、発音、スピーキング、リスニング、モチベーション、自律学習
所属学会	全国英語教育学会　外国語教育メディア学会（LET）
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）Integrated English ⅡA, Advanced English ⅢA, Integrated English ⅡB, Advanced English ⅢB

平成 30 年度における研究業績

○ 学会発表等

1. [研究論文（大学，研究機関紀要）（単著）] Factors predicting motivation for and engagement in production tasks among Japanese university students 茨城大学全学教育機構論集　大学教育研究　2号 2019

2. [口頭発表（一般）・国際会議（単独）] ″Motivation for and engagement in production tasks among Japanese university students″ 54th RELC International Conference and 5th Asia-Pacific LSP and Professional Communication Association Conference[2019 年 03 月 11 日]

3. [口頭発表（一般）・国際会議（共同）] Yo Hamada & Satoko Suzuki ″Shadowing for perceptual adaptation toward Chinese accented speech″ International Conference on English Teaching and Learning（Taiwan, R.O.C.）[2018 年 05 月 18 日]

共通教育部門	氏名 館 深雪

職名	講師
学位	教育学部英語教育学科学士[ボブ・ジョーンズ大学] 教育学研究科修士課程心理教育学修士[ボブ・ジョーンズ大学大学院] アーツ・サイエンス研究科修士課程心理教育学専攻言語教育修士[国際基督教大学]
学歴	国際基督教大学大学院 アーツ・サイエンス研究科修士課程 修士課程 心理教育学専攻言語教育(日本)[2015 年 03 月修了] ボブ・ジョーンズ大学大学院 修士課程 カウンセリング科(アメリカ合衆国)[2000 年 05 月修了] ボブ・ジョーンズ大学 教育学部 英語教育学科(アメリカ合衆国)[1998 年 05 月卒業]
職歴	茨城大学 全学教育機構講師(2015 年 2 月～) 株式会社ゼウス・エンタープライズバイリンガル・コーディネーター課課長(2008 年 9 月～2013 年 3 月) Calvary Christian Academy(北マリアナ諸島サイパン島)英語教師(中等部、高等部)(2000 年 8 月～2007 年 7 月)
専門分野	英語教育、言語教育、カウンセリング
教育研究概要	コミュニケティブ コンペテンスに対するコミュニケーション意欲の影響を調査し、大学英語教育および企業英語使用現場にて取り入れるための方法における研究
	(キーワード) コミュニケティブ コンペテンス、コミュニケーション意欲、企業英語
所属学会	全国英語教育学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目)Integrated English ⅢA, Advanced English ⅢA, Integrated English ⅢB, Advanced English ⅢB, Integrated English Ⅲ B, Cross-cultural Understanding, Bilingualism

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・共著]館深雪、野村幸代、藤井拓哉「総合英語レベル 5 の CAN DO リストを用いたカリキュラム評価」, 茨城大学全学教育機構論集, 2, 75-83(2019 年 03 月)

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

【大学入試業務】

○ 全学的委員会の業務

「グローバル・イングリッシュ・プログラム部会」

「プラクティカル・イングリッシュ部会」

○ その他の校務

学内文書英訳業務

学生支援部門	氏名　小磯 重隆

職名	准教授
学位	修士（法学）［筑波大学］
学歴	金沢大学大学院 社会環境科学研究科 博士後期課程［2004 年 10 月中退］
職歴	JUKI 株式会社 工業用ミシン事業部縫製能率研究所（1987.4～1999.3） 雇用促進事業団（独立行政法人雇用・能力開発機構）（1999.4～2004.10） 国立大学法人弘前大学 教育推進機構キャリアセンター准教授（2004.11～2016.6） 国立大学法人茨城大学 全学教育機構キャリアセンター准教授（2016.7～現在）
専門分野	社会法学（労働法） 社会学（職業能力開発） 教育社会学（キャリア教育）
教育研究概要	多人数アクティブラーニングの実践モデルの研究、キャリア教育教材、若年者の雇用問題
	（キーワード）キャリア教育、労働法、職業能力開発、男女共同参画、地方創生
所属学会	日本キャリア教育学会　日本産業教育学会　日本労働法学会　日本キャリアデザイン学会
受賞歴	日本学術振興会「科研費」審査委員 表彰（2016）
担当科目	（教養科目）公共社会【2Q】仕事を考える，公共社会 （教養科目）公共社会【1234Q】インターンシップ実習Ⅰ，公共社会

平成 30 年度における研究業績

＜研究会報告＞

・労働法研究会（2018 年 1 月）「労働契約法 18 条、無期転換等」第1回報告

・労働法研究会（2018 年 6 月）「労働契約法 18 条、無期転換等」第2回報告

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など：

○ 行政機関等での委員就任

1.「茨城労働局新卒者等就職・採用応援本部」会議及び「茨城県離学者支援協議会」茨城県［委員］

2.「平成 30 年度茨城県地域活性化雇用創造プロジェクト協議会」茨城県［委員］

○ 地域協力活動

1. 青森県若年者就職支援センター「教職員のための「キャリア相談員養成研修（八戸）」講師」（2018 年 12 月）

2. 青森県若年者就職支援センター「教職員のための「キャリア相談員養成研修（青森）」講師」（2018 年 01 月）

3. 青森県若年者就職支援センター「教職員のための「キャリア相談員養成研修（弘前）」講師」（2018 年 01 月）

4. 茨城県キャリア支援ネットワーク「若手社員との交流会」（2018 年 02 月）

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費]「多人数アクティブラーニング実践モデルの研究」, (2015 年 04 月 01 日～2018 年 03 月 31 日)

平成 30 年度における国際交流活動

1)「留学生のための就職研修会(阿見・日立・水戸各キャンパス)」
(連携協定)一般財団法人 日本国際協力センター(JICE)

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1.「全学教育機構(教員選考委員会)」[委員](2018 年 11 月)

2.「茨城 COC プラス 教育プログラム開発委員会」[委員(インターンシップワーキンググループ代表)](2018 年 04 月～)

3.「共通教育部門 専門部会(社会と生活部会)」[部会員](2018 年 01 月～)

4.「就職支援・キャリア教育推進部会」[構成員](2017 年 07 月～)

5.「全学教育機構 学生支援部門会議」[構成員](2017 年 07 月～)

6.「茨城大学 COC 統括機構 COC 地域共生委員会」[委員](2017 年 07 月～)

7.「茨城大学地元就職推進委員会」[委員](2017 年 04 月～)

○ 全学的委員会の業務

「みんなの「イバダイ学」プロジェクト」[運営メンバー](2018 年 11 月～)

「共通教育部門 専門部会(社会と生活部会)」[構成員](2018 年 04 月～)

「茨城 COC プラス推進協議会(教育プログラム開発委員会)」[ワーキンググループリーダー](2018 年 04 月～)

「茨城大学 COC 統括機構 COC 地域共生委員会」[委員](2018 年 04 月～)

「社会連携センター地域連携部門会議」[委員](2017 年 07 月～)

「点検評価委員会」[委員](2017 年 07 月～)

「教務ポータル専門委員会」[委員](2017 年 07 月～)

「全学教育機構 学生支援部門会議」[構成員](2017 年 07 月～)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. [留学生のための就職研修会(阿見キャンパス)](2018 年 10 月～2018 年 12 月)

2. [留学生のための就職研修会(日立キャンパス)](2018 年 10 月～2018 年 12 月)

3. [iOP ラボ「つまみぐインターンシップ」](2018 年 10 月～)

4. [留学生のための就職研修会(水戸キャンパス)](2018 年 10 月～2018 年 12 月)

5. [一般財団法人 日本国際協力センターと茨城大学との連携協定](2018 年 04 月～2019 年 03 月)

○ その他の校務

1. [平成 30 年度茨城大学オープンキャンパス](2018 年 07 月)

「保護者のための就職講座」大学と保護者でつくる就職支援 講話「自分の子どもに”どんな就職”をさせたいですか」

学生支援部門	氏名　矢嶋 敬紘

職名	講師
学位	修士（教育学）[茨城大学]
学歴	早稲田大学 人間科学部[卒業] 茨城大学大学院 教育学研究科 修士課程[修了]
職歴	
専門分野	社会福祉学 臨床心理学
教育研究概要	
	（キーワード）
所属学会	日本心理臨床学会
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）人間とコミュニケーション【2Q】障害者理解と共生，人間とコミュニケーション【集中】障害者理解と共生，健康の科学【1Q】心と体の健康科学，健康の科学【3Q】心と体の健康科学

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [・]矢嶋敬紘,額賀沙弥香,門馬綾,曽田陽子,沼田世里,深谷佳子,中井川香梨,西川陽子「茨大なんでも相談室及びバリアフリー推進室の利用状況と今後の課題」，茨城大学全学教育機構論集，1，141-156（2018 年）

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 学協会での役職

1. 茨城県臨床心理士会，理事，産業領域委員会委員長（2018 年～）
2. いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム，障害学生支援委員会副委員長（2018 年～）

○ 地域協力活動

1. 教員免許状更新講習　講師（2017 年～）

○ 講演会・シンポジウム

1. 独立行政法人日本学生支援機構 障害学生支援専門テーマ別セミナー「オンキャンパス支援と産学官連携（話題提供）」[講師](2018 年 11 月)
2. 茨城キリスト教大学経営学部 FD 研修会「コミュニケーションが苦手な学生と大学教育」[講師]（2019 年 3 月）

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

1.「全学教育機構 web サイト開設準備 TF」[委員]（2018 年 02 月～）

2.「全学教育機構　学生支援部門会議」[委員]（2017 年 04 月～）

○ 全学的委員会の業務

1.「全学教育機構　バリアフリー推進会議」[障害学生修学支援員]（2017 年 04 月～）

2.「全学教育機構　学生生活支援部会」[学生相談員]（2017 年 04 月～）

○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等

1. 工学部 FD/SD「工学部学生支援の協業について」［講師］（2018 年 5 月）

2. ダイバーシティ推進室「メンタリングの基本的な心構え」［講師］（2018 年 9 月）

○ その他の校務

1. 障害等のある学生支援業務

2. 学生相談業務

3. バリアフリー推進室（水戸キャンパス、日立キャンパス、阿見キャンパス）運営業務

4. なんでも相談室（水戸キャンパス、日立キャンパス、阿見キャンパス）運営業務

5. ピアサポーター育成・運営業務

国際教育部門	氏名　安 龍洙

職名	教授
学位	博士（文学）［東北大学］
学歴	東北大学大学院 文学研究科 博士後期課程 言語科学専攻［2000 年修了］
職歴	茨城大学留学生センター助教授（2003 年 4 月～2008 年 3 月） 茨城大学留学生センター教授（2008 年 4 月～2017 年 3 月） 茨城大学全学教育機構教授（2017 年 4 月～）
専門分野	日本語教育
教育研究概要	日本社会における異文化理解の変容に関する事例研究 日本社会における外国人（①ニューカマー②オールドカマー③その他）と日本人（①外国人との接触頻度の高い日本人②外国人との接触頻度の低い日本人③その他）の異文化理解のあり方及びその変容について PAC 分析法を用いて認知的・情意的な観点から探っている。
	（キーワード） 異文化理解、PAC 分析法、外国人と日本人の相互理解、質的研究
所属学会	国立大学留学生指導研究協議会　アジア・ヨーロッパ未来学会　日本語教育学会　第二言語習得研究会 韓国日本近代学会
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）学術日本語基礎/学術日本語Ⅰ，日本語教育概論，表現・言語系科目/思想・文学【1Q】日本語を考える（日本語の諸相），表現・言語系科目，多文化共生 （専門科目）日本語教授法演習，日本語教授法演習 （大学院科目）日本語表現法Ⅰ

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1.［研究論文（学術雑誌）・単著 【査読あり】］安龍洙「国費留学生の日本留学観の変化に関する一考察－日韓プログラム 14 期生を対象にした 4 年間の追跡調査から－」，留学生交流・指導研究，20，97-114（2018 年）

2.［（MISC）研究発表要旨（全国大会，その他学術会議）・共著 【査読あり】］太田亨,安龍洙,村岡貴子「韓国人理工系学部入学前予備教育生の「論理的文章」に関する意識について－第 18 期日韓プログラム生へのアンケート結果より－」，第 20 回専門日本語教育学会研究討議会誌，16，28-29（2018 年）

3.［研究論文（大学，研究機関紀要）・共著 【査読あり】］松田勇一・安龍洙「日本社会における中国人交換留学生の異文化理解に関する一考察」，グローバル教育研究，1，69-84（2018 年）

4.［研究論文（大学，研究機関紀要）・共著 【査読あり】］石鍋浩・安龍洙「日本社会における英語圏交換留学生の異文化理解に関する一考察」，グローバル教育研究，1，57-68（2018 年）

5.［研究論文（大学，研究機関紀要）・共著 【査読あり】］青木香代子・安龍洙「日本社会における東南アジア出身交換

留学生の異文化理解に関する一考察」, グローバル教育研究, 1, 13-28(2018 年)

6. [研究論文(大学, 研究機関紀要)・単著【査読あり】【依頼/招待】]安龍洙「東欧出身短期留学生の日本留学観に関する一考察」, グローバル教育研究, 1, 1-12(2018 年)

○ 学会発表等

1. [口頭発表(招待・特別)・] 安龍洙「日本で学ぶ留学生の日本のポップカルチャーのとらえ方について」(ブルガリア)ソフィア大学・(日本)国際交流基金 国際カンファレンス「Pop-culture and Youth in Japan and Bulgaria」[2019 年 03 月 11 日]

2. [口頭発表(一般)・国内会議(共同)] 太田亨・安龍洙・菊池和徳・村岡貴子「韓国人文系大学生と日韓理工系学生の「論理的文章」に関する意識の比較分析」第 21 回専門日本語教育学会研究討議会(下関市立大学)[2019 年 03 月 04 日]

3. [口頭発表(招待・特別)・国内会議(単独)] 安龍洙「日韓プログラム留学生の日本留学観について」2018 年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会(神戸大学百年記念館(神大会館))[2018 年 06 月 22 日]

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 学協会での役職

1. 国立大学留学生指導研究協議会, 代表幹事(2016 年 07 月～)

2. アジア・ヨーロッパ未来学会, 理事(2011 年 01 月～)

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. [科研費]基盤研究(C)**(代表)**「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究(研究代表者)」(2017 年 04 月 01 日～2021 年 03 月 31 日)

2. [科研費]基盤研究(B)(分担)「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究(研究分担者)」(2016 年 04 月 01 日～2020 年 03 月 31 日)

○ 共同研究・受託研究

1. [国内共同研究]「外国人と日本人の相互理解に関する質的実証研究」, (2012 年 04 月～)

国際教育部門	氏名　八若 壽美子

職名	教授
学位	修士（人文科学）[お茶の水女子大学]
学歴	お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 博士後期課程 比較文化学[（2003 年単位取得満期退学]
職歴	茨城大学全学教育機構教授（2017 年 4 月～）
専門分野	日本語教育
教育研究概要	（キーワード）日本語教育、自律的言語学習、留学評価、ライフストーリー
	1.教育概要: 日本語教育、留学生教育、日本語教師養成 2.研究概要: 元留学生のライフストーリー・インタビューから留学評価と日本語学習の関連についての研究を進めている。
所属学会	日本語教育学会 ﾖｰﾛｯﾊﾟ日本語教師会 日本言語文化学研究会
受賞歴	平成 14 年度茨城大学教育研究開発センター推奨授業表彰（2003）
担当科目	（基盤教育科目）学術日本語Ⅰ/学術日本語ⅡB, 多文化社会と日本語教育, 5 学部混合地域 PBL Ⅳ, 表現・言語系科目/思想・文学【1Q】日本語を考える（日本語の諸相）, 表現・言語系科目/思想・文学【4Q】日本語を考える（日本語文法） （専門科目）日本語教授法演習 （日本語研修コース） 日本語レベル 4 総合 A・B, 日本語レベル 3 総合 A・B, 日本語レベル 3 口頭表現 A・B

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1. [研究論文（大学, 研究機関紀要）・単著 【査読あり】]八若壽美子「元留学生のライフストーリーに見る留学評価一家族と日本で生活する元留学生の場合一」, 茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究 , 2, 29-45（2019 年 02 月）

○ 学会発表等

1. [ポスター発表・国際会議（共同）] 八若壽美子、池田庸子「元交換留学生のライフストーリーに見る日本留学の意義」ヴェネチア 2018 年日本語教育国際研究大会（ヴェネチア Ca'Foscari University of Vinece(Italy)）[2018 年 08 月 04 日]

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 地域協力活動

1. 5 学部混合地域 PBL Ⅳ 授業担当

2. 公開講座『茨城大学で学ぶ留学生が見た日本社会』(6 月 2 日)
3. 公開講座 『茨城大学で学ぶ留学生達の出身国』(7 月 28 日)

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

1. 科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号 17K02839 研究代表者)「元留学生の留学評価と日本語学習との関連に関する実証的研究」

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務(機構)

1.「全学教育機構人事委員会」[委員](2017 年～2019 年 03 月)
2.「日本語教育プログラム部会」[部会長](2017 年 04 月～2019 年 03 月)
3.「多文化理解部会」[委員](2017 年 04 月～2019 年 03 月)

○ 機構教員としての全学的活動(教学マネジメント)等

1. [外国人学生のための進学説明会](2018 年 07 月)

○ その他の校務

1. 外国人留学生支援及びチューター指導に関する業務
・「チューターガイダンス」(2018 年 04 月 09 日)
・「9 月来日留学生サポート隊ガイダンス」(2018 年 9 月 20 日)
・「4 月来日留学生サポート隊ガイダンス」(2019 年 3 月 29 日)

国際教育部門	氏名　池田 庸子

職名	教授
学位	修士［ペンシルバニア州立大学］
学歴	ペンシルバニア州立大学大学院 比較文学科 修士課程 比較文学((BLANK))［1993 年修了］
職歴	茨城大学留学生センター教授（2010 年 4 月～） 茨城大学留学生センター助教授（2002 年 4 月～2010 年 3 月） 関西外国語大学助教授（1998 年 4 月～2002 年 3 月） 関西外国語大学専任講師（1993 年 9 月～1998 年 3 月） ペンシルバニア州立大学 TA（1991 年 9 月～1993 年 8 月） イースタンニューメキシコ大学 TA（1990 年 9 月～1991 年 5 月）
専門分野	日本語教育
教育研究概要	日本語教育、教材開発、文学教育、多読教育、留学生に対する質的研究
	（キーワード）日本語教育、教材開発、多読、
所属学会	全米日本語教育学会　日本語教育学会　日本語教育方法研究会　留学生教育学会
受賞歴	なし
担当科目	（基盤教育科目;リベラルアーツ科目） 多文化理解；異文化コミュニケーション；「学術日本語ⅡA」 多文化理解；異文化コミュニケーション；「短期海外研修Ⅰ、Ⅱ（スペイン）」 多文化理解；ヒューマニティーズ；「日本語を考える」 （全学共通プログラム科目） 「日本語教授法Ⅱ」,「日本語教授法演習」,「日本語教授法演習（海外）」 （日本語研修プログラム） レベル１～４

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1.［研究論文（大学，研究機関紀要）・単著【査読あり】］池田庸子「元日本留学生のライフストーリーに見る留学評価―交換留学から英語教育の道へ―」，茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究，**2**，47-58（2019 年 02 月）

2.［研究論文（研究会，シンポジウム資料等）・単著］池田庸子「多読から創作へ―中級日本語学習者を対象とした多読授業における試み―」，日本語教育方法研究会誌，**25**，1，8-9（2018 年 09 月 08 日）

○ 学会発表等

1.［口頭発表（一般）・国際会議（共同）］ シャカル佳子、池田庸子、瀬尾匡輝「日米間の E メール交換、ズームミーティング

による授業の活性化」全米日本語教育学会（コロラド州デンバー）[2019 年 03 月 21 日]
2. [口頭発表（一般）・国内会議（単独）] 「多読から創作へ―中級日本語学習者を対象とした多読授業における試み―」日本語教育方法研究会[2018 年 09 月 08 日]
3. [ポスター発表・国際会議（共同）] 八若壽美子・池田庸子「元交換留学生のライフストーリーに見る日本留学の意義」ヴェネツィア 2018 年日本語教育国際研究大会[2018 年 08 月 04 日]

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 講演会・シンポジウム
1.「全米日本語教育学会 Spring Conference ランチセミナー（国外）」, 全米日本語教育学会 Spring Conference（コロラド州デンバー）[その他]（2019 年 03 月）
○ 地域協力活動

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得
1. [科研費]（分担）「元留学生の留学評価と日本語学習に関する実証的研究」, 0 万円 （2017 年 04 月 01 日～2020 年 03 月 31 日）

平成 30 年度における国際交流活動

1)「コメニウス大学（スロバキア）との部局間学生交流協定締結」（連携協定あり）[ ]・コメニウス大学人文学部（スロバキア）
2)「アルカラ大学スペイン語研修」（連携協定あり）の実施 参加学生 4 名
3)「ウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流」

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 全学的委員会の業務
「ダイバーシティ推進委員会」（2018 年 04 月～2020 年 03 月）
○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等
~~1~~2. [全学教育機構点検評価委員会]（2017 年 04 月～2019 年 03 月）
3. [全学教育機構予算・施設委員会委員]（2017 年 04 月～2019 年 03 月）
4. [就職支援・キャリア教育推進部会]（2017 年 04 月～2019 年 03 月）
○ その他の校務
1. [茨城大学留学生同窓会]（2017 年 10 月～）
2. [日本語研修コース継続性ガイダンス]（2017 年 09 月～）
3. [日本語研修コース学外研修旅行]（2017 年 06 月～2018 年 02 月）
4. [海外留学説明会]（2017 年 05 月～）
5. [TOEFL 学内実施企画]（2017 年 05 月～2018 年 02 月）
6. [グローバル教育センター主任]（2017 年 04 月～2019 年 03 月）

国際教育部門	氏名　青木 香代子

職名	講師
学位	教育学博士［サンフランシスコ大学大学院］
学歴	サンフランシスコ大学大学院 教育学部 博士課程 国際・多文化教育（アメリカ合衆国）［2008 年 05 月修了］
職歴	中央大学文学部事務室嘱託職員（2013 年 2 月～2017 年 3 月） 国際教養大学非常勤講師（2012 年 6 月～2012 年 7 月） 桑港学園日本語学校講師（2008 年 9 月～2012 年 3 月）
専門分野	教育学
教育研究概要	専門は多文化教育。2016 年～2018 年にかけて、海外体験学習における参加学生の異文化間能力に関して、日本人性の視点をもとに分析・考察を行った。また、2018 年度より、アメリカ合衆国を中心に展開されてきた社会正義のための教育（social justice education）について、批判的教育学、批判的人種理論、白人性、特権性、アイデンティティの交差性の視点などから考察し、日本における社会正義のための教育の理論・実践研究を行っている。
	（キーワード）多文化教育　異文化間教育　国際理解教育　批判的教育学
所属学会	日本教育社会学会　日本国際理解教育学会　日本移民学会　日本オーラル・ヒストリー学会　Comparative and International Education Society　異文化間教育学会
受賞歴	なし
担当科目	（教養科目）多文化社会と日本語教育，5 学部混合地域 PBL Ⅳ，学術日本語Ⅰ（応用），表現・言語系科目+グローバルスタディーズ，人間・文化系科目+多文化共生，表現・言語系科目+グローバルスタディーズ，人間・文化系科目+多文化共生，表現・言語系科目，多文化共生（短期海外研修Ⅰ・Ⅱ　サンフランシスコボランティア） （専門科目）日本語教授法演習

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1.［研究論文（大学，研究機関紀要）・共著【査読あり】］青木香代子・安龍洙「中国人短期留学生の日本留学観に関する一考察」，茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究，2，13-27（2019 年 02 月）

2.［研究論文（大学，研究機関紀要）・単著【査読あり】］「アメリカにおける社会正義のための教育の可能性－多文化教育の批判的検討を通して－」，茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究，2，103-115（2019 年 02 月）

3.　［その他・編集］青木香代子「サンフランシスコボランティア体験学習を通してみた多文化社会アメリー2018 年度短期海外研修　サンフランシスコボランティア報告書－」2019 年 2 月

○ 学会発表等

1. ［口頭発表（一般）・国内会議（単独）］「多」文化環境におけるアイデンティティ―日台ダブルのライフストーリーを一事例として―」異文化間教育学会　第 39 回大会（新潟大学）［2018 年 06 月 10 日］

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 学外教育

1. ［茨城大学主体の社会教育（公開講座以外）］「日本人とはだれか？多様化する社会についてみんなで考えてみよう」, 茨城大学グローバル教育センター

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. ［科研費］基盤研究(C)（分担）「日本社会における外国人と日本人の異文化相互理解に関する質的実証研究」, 0 万円 （2017 年 04 月 01 日～2021 年 03 月 31 日）

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

学術委員会委員

○ その他の校務

1. 日本語研修コースコーディネーター
2. グローバル教育センター　国際交流パーティー

国際教育部門	氏名　瀬尾 匡輝

職名	准教授
学位	学士（第二言語としての英語教授法）［ハワイパシフィック大学］ 副専攻（社会科学）［ハワイパシフィック大学］ 学士（宗教学）［ハワイ大学マノア校］ 修士（第二言語研究）［ハワイ大学マノア校］ 博士（言語学）［上智大学］
学歴	上智大学大学院 外国語学研究科 博士課程 言語学専攻［2014 年 03 月単位取得満期退学］ ハワイ大学マノア校大学院 第二言語研究学科 修士課程（アメリカ合衆国）［2008 年 12 月修了］ ハワイ大学マノア校 人文学部 宗教学科（アメリカ合衆国）［2006 年 08 月卒業］ ハワイパシフィック大学 国際学部（アメリカ合衆国）［2005 年 05 月卒業］
職歴	茨城大学全学教育機構国際教育部門准教授（2019 年 4 月～） 茨城大学全学教育機構国際教育部門講師（2017 年 4 月～2019 年 3 月） 茨城大学留学生センター講師（2015 年 4 月～2017 年 3 月） 香港理工大学　人文学院中文及雙語学系専任講師（2012 年 1 月～2015 年 3 月） 香港大学専業進修学院　助理講師（2009 年 9 月～2011 年 12 月） 香港大学専業進修学院　非常勤講師（2009 年 1 月～2009 年 8 月） コンコーディア・ランゲージ・ビレッジ　　森の池教務主任（2007 年～2008 年） ハワイパシフィック大学　非常勤講師（2008 年 1 月～2009 年 1 月） コンコーディア・ランゲージ・ビレッジ　森の池　夏季日本語教師（2005 年～2006 年）
専門分野	日本語教育　外国語教育　教育社会学
教育研究概要	言語教育（特に日本語教育）、教育社会学を専門としている。これまで海外を拠点に研究を行ってきたことから、海外における日本語教育のあり方を再考するべく、グローカル化の観点から研究を進めてきた。そして、動機づけの研究を行う中で、満足感や喜びを得るために外国語を学習する「余暇活動と消費としての外国語学習」を明らかにし、海外における外国語学習の意義を検討してきた。 　余暇的な外国語学習の存在を明らかにしていく中で、教育サービスを提供している学校や教師も様々な手法をとり、学習者の獲得を試みていることに気付いたことから、現在は言語教育の商品化について香港とベトナムをフィールドに研究を進めている。
	（キーワード）外国語/第二言語としての日本語教育（JSL/JFL）、批判的応用言語学、第二言語習得研究の JSL/JFL への応用（e.g. タスク中心教授法、内容中心教授法）、グローバリゼーションと言語教育、実践研究、質的研究、批判的教育
所属学会	海外日本語教育学会　大学日本語教員養成課程研究協議会　日本教師教育学会　日本教育工学会　国立大学留学生指導研究協議会　開発教育協会　国際理解教育学会　異文化間教育学会　日本質的心理学会　日本教育社会学会　言語文化教育研究学会　日本語教育方法研究会　カナダ日本語教育振興会　アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会　全国語学教育学会　香港日本語教育研究会　日本語教育学会

受賞歴	The Patricia A. Williams Prize in Education（2005）
担当科目	（日本語研修コース）日本語レベル3（漢字），日本語レベル4（総合） （阿見日本語補習授業）集中日本語入門コース，日本語入門 IA，日本語入門 IB，日本語初級 I，日本語中級，非漢字圏の人のための漢字 （教養科目）5 学部混合地域 PBL Ⅳ，表現・言語系科目／人間とコミュニケーション【1Q】Japanese Pop Culture A，表現・言語系科目／人間とコミュニケーション【2Q】Japanese Pop Culture B， Studies in Contemporary Japan，Studies in Particular Field，多文化共生 短期海外研修ⅠⅡ（ブルネイ），多文化共生 短期海外研修ⅠⅡ（マレーシア） （専門科目）日本語教授法Ⅰ，日本語教授法演習，日本語教授法演習

平成 30 年度における研究業績

○ 著書・論文等

1.［調査報告書・編者］瀬尾匡輝「ブルネイってどんなところ？―2018 年度ブルネイ・ダルサラーム大学短期研修報告」，茨城大学グローバル教育センター，（2019 年 03 月 01 日）

2.［研究論文（大学，研究機関紀要）・共著 【査読あり】］瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「映像を用いた実践共有の課題と可能性―日本語中級クラスにおけるインタビュー・プロジェクトの映像化から」，茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究，2，87-90（2019 年 02 月）

3.［研究論文（学術雑誌）・単著 【査読あり】］瀬尾匡輝「文法を重視する」という日本語教育に対する教師の考えはどのように作り出されているのか―言語教育のローカル化の視点から」，Journal CAJLE，19，23-41（2018 年 07 月）

4.［研究論文（大学，研究機関紀要）・単著 【依頼/招待】］瀬尾匡輝「消化不良のままうそつきって思いながら授業してる」―海外で働く日本語教師の実践の構築・再構築」，上智大学英語教員研究，66，22-43（2018 年 04 月 01 日）

○ 学会発表等

1.［ポスター発表・国内会議（単独）］ 瀬尾匡輝「文化を批判的に教える―日本語教育副専攻課程における実践から」日本語教育方法研究会第 52 回研究会［2019 年 03 月 23 日］

2.［口頭発表（一般）・国内会議（単独）］ 瀬尾匡輝「マーケティングの視点から考察する言語教育サービスの商品化―香港の民間日本語教育機関を事例として」言語文化教育研究学会第5回年次大会［2019 年 03 月 09 日］

3.［口頭発表（一般）・国内会議（単独）］ 瀬尾匡輝「つながりを売り出す言語教育サービスの商品化 ―香港の民間日本語学校の事例をもとに」北東アジア言語教育研究会 第 1 回研究発表会［2019 年 03 月 03 日］

4.［口頭発表（一般）・国際会議（単独）］ 瀬尾匡輝「言語教育の商品化に対する学習者の意識 ―香港の民間日本語学校で学ぶ成人日本語学習者へのインタビューから」第 12 回国際日本語教育・日本研究シンポジウム（香港）［2018 年 12 月 08 日］

5.［ポスター発表・（単独）］ 瀬尾匡輝「余暇活動として学ぶ学習者に対する言語教育サービスの商品化」日本語教育学会 2018 年度秋季大会［2018 年 11 月 25 日］

6.［その他・国内会議（共同）］ 瀬尾匡輝・瀬尾悠希子「日本語教師を目指す人向けの映像教材の開発」日本語教育学会 2018 年度秋季大会［2018 年 11 月 24 日］

7.［その他・国内会議（単独）］ 瀬尾匡輝「学生のレポートを電子書籍で出版する」第 20 回実践持ち寄り会［2018 年 11 月 03 日］

8. ［口頭発表（一般）・国内会議（単独）］ 瀬尾匡輝「ビジネスライクなところの違和感、あります」―言語教育の商品化と消費、その中にいる教師の葛藤とその克服」日本教育社会学会第 70 回大会［2018 年 09 月 03 日］
9. ［口頭発表（一般）・国際会議（単独）］ 瀬尾匡輝「言語教育の商品化に対する教師の意識―香港の民間日本語学校で働く教師へのインタビュ ーから」ヴェネツィア 2018 日本語教育国際研究大会［2018 年 08 月 03 日］
10. ［シンポジウム・ワークショップ パネル（指名）・（単独）］ 瀬尾匡輝「コミュニティと関わり、コミュニティに働きかけるプロジェクト活動―留学生と日本人学生が共に学ぶ授業実践から」『言語教育実践イマ×ココ』フォーラム 2018（学習院大学）［2018 年 05 月 25 日］
11. ［口頭発表（一般）・国際会議（単独）］ Masaki Seo "Commodifying Language Learning for Hobbyists: Lifelong Learning Schools in Hong Kong" Taiwan Association for Sociology of Education (TASE) 24th Annual Conference 2018 ［2018 年 05 月 05 日］
12. ［その他・（単独）］ 瀬尾匡輝「修士号取得から博士号取得まで―仕事と研究をふりかえって」上智大学大学院 言語科学研究科 新入生・在校生ガイダンス 講演会［2018 年 04 月 03 日］
13. ［口頭発表（招待・特別）・（単独）］ 瀬尾匡輝「消化不良のままうそつきって思いながら授業してる」―理論と現場の狭間で葛藤する日本語教師の実践の再構築」上智大学大学院 言語科学研究科 新入生・在校生ガイダンス 講演会［2018 年 04 月 03 日］

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ 兼業・兼職

1. ［兼業］ 香港大学専業進修学院・外部評価員（2017 年 02 月～）
2. ［兼業］ タイ ウボンラチャターニー大学教養学部 日本語学科・外部評価員（2018 年 05 月～2018 年 06 月）

○ 学協会での役職

1. 全国語学教育学会 分野別研究部会 海外留学, 広報委員長（2018 年 11 月～）
2. 言語文化教育研究学会, 研究集会実行委員長（2016 年～）
3. 言語文化教育研究学会, 事務局長補佐（2015 年～2019 年 03 月）
4. 言語文化教育研究学会, 研究集会実行委員（2014 年～）
5. 言語文化教育研究学会, 理事（2014 年～）

○ 学外教育

1. ［茨城大学主体の社会教育（公開講座以外）］「日本人とはだれか？―多様化する日本社会についてみんなで考えよう」, 4 時間, 30 名出席, 茨城大学グローバル教育センター
2. ［茨城大学主体の社会教育（公開講座以外）］「みんなの＜イバダイ学＞シンポジウム」, 1 時間, , 茨城大学
3. ［公開講座］「世界を知ろう！茨城大学留学生による自国の文化紹介」, 3 時間, , 茨城大学公開講座
4. ［出前授業］「外国語として日本語を教えてみよう！」, 2 時間, 60 名出席, 茨城県立那珂高等学校
5. ［出前授業］「世界と日本を考える」, 3 時間, 80 名出席, 茨城県立水戸商業高等学校
6. ［公開講座］「異文化理解入門―異文化コミュニケーション・ゲーム「バーンガ」の経験を通して」, 2 時間, 45 名出席, 茨城大学・阿見町国際交流協会ジョイントプログラム
7. ［出前授業］「外国語として日本語を教えてみよう！」, 2 時間, 30 名出席, 茨城県立勝田高等学校
8. ［公開講座］「茨城大学で学ぶ留学生達の出身国 ～自国の紹介を批判的に検討した結果から～」, 2 時間, , 茨城大学公開講座

9. ［公開講座］「茨城大学で学ぶ留学生が見た日本社会 ～留学生達が行ったインタビュー調査をもとに話し合おう！～」, 2 時間, , 茨城大学公開講座

○ 地域協力活動

1. タイ ウボンラチャターニー大学教養学部 日本語学科［学外審議会・委員会等］「タイ ウボンラチャターニー大学教養学部 日本語学科 外部評価員」（2018 年 05 月～2018 年 06 月）

2. 香港大学専業進修学院［学外審議会・委員会等］「香港大学専業進修学院 外部評価員」（2017 年～）

3. ［地域貢献事業］「阿見町国際交流協会」（2015 年 05 月～）

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1. ［科研費］平成 29 年度 若手研究(B)**（代表）**「言語学習の「商品化」と「消費」の包括的な理解を目指した調査研究」, 403 万円 （2017 年 04 月 01 日～2020 年 03 月 31 日）

平成 30 年度における国際交流活動

1)［教育交流］「マレーシア短期英語語学研修」（連携協定あり）・マレーシア科学大学（マレーシア）

2019 年 03 月～2019 年 03 月 相手方参加者数：学生 15 名 本学参加者数：学生 12 名

2)［教育交流］「ウィスコンシン州立大学スペリオル校との授業交流」（連携協定あり）・ウィスコンシン大学州立大学スペリオル校（アメリカ合衆国）

2018 年 11 月～2018 年 11 月 相手方参加者数：教員 1 名/学生 20 名 本学参加者数：教員 1 名/学生 11 名

3)［教育交流］「ブルネイ・ダルサラーム大学の学生との授業交流」（連携協定あり）・ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ・ダルサラーム国）

2018 年 09 月～2018 年 11 月 相手方参加者数：教員 1 名/学生 8 名 本学参加者数：教員 1 名/学生 11 名

4)［教育交流］「ブルネイ・ダルサラーム大学の学生とのオンライン交流」（連携協定あり）・ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ・ダルサラーム国）

2018 年 08 月～2018 年 11 月 相手方参加者数：教員 1 名/学生 20 名 本学参加者数：教員 1 名/学生 20 名

5)［教育交流］「ブルネイ短期英語語学研修」（連携協定あり）・ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ・ダルサラーム国）

2018 年 08 月～2018 年 09 月 相手方参加者数：教員 3 名/学生 20 名 本学参加者数：学生 27 名

6)［親善交流］「ブルネイ・ダルサラーム大学の学生とのランチ交流会」（連携協定あり）・ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ・ダルサラーム国）

2018 年 04 月～ 相手方参加者数：学生 3 名 本学参加者数：教職員 5 名/学生 10 名

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 委員会・入試などの業務（機構）

・ 日本語教育プログラム部会, グローバル英語教育プログラム部会, 英語教育検討タスクフォース

○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等

・ 阿見・日立日本語補習授業 コーディネーター, 阿見キャンパス留学交流室チューターの支援, グローバル教育センターホームページ及び Facebook ページの管理, 阿見町国際交流協会との連携事業の促進, 阿見キャンパスの留学生

家族の生活支援

○ その他の校務

・ 茨朋会幹事長

国際教育部門	氏名 塚田 純

職名	助教
学位	修士 (Media and Communication)[Mittuniversitetet] 博士(学術)[東北大学]
学歴	Mittuniversitetet 大学院 Department of Media and Communication Science 修士課程 Political Communication(スエーデン)[(年不明)修了] 東北大学大学院 情報科学研究科 博士課程 人間社会情報科学専攻メディア情報学講座メディア文化論(日本)[(年不明)修了]
職歴	
専門分野	政治コミュニケーション、ジャーナリズム、メディア論
教育研究概要	
	(キーワード)Political Communication, Constructive Journalism, Mediated Citizenship, Journalism, Democratic Citizenship, Democracy, Democratizing Potential of the Internet, Media Literacy, Normative Theories of the Media
所属学会	日本比較文化学会 社会情報学会
受賞歴	なし
担当科目	(教養科目)5 学部混合地域 PBL Ⅳ, メディア文化【1Q】Media Effects A, グローバルスタディーズ【1Q】Analyzing Social Issues A, 表現・言語系科目/メディア文化【2Q】Media Effects B, グローバルスタディーズ【2Q】Analyzing Social Issues B, Studying Abroad, 人間とコミュニケーション, 表現・言語系科目+グローバルスタディーズ, メディア文化, Studying Abroad, 表現・言語系科目+人間とコミュニケーション, グローバルスタディーズ, メディア文化, 表現・言語系科目, 多文化共生

平成 30 年度における研究業績

○ **学会発表等**

1. [その他・国際会議(単独)] ""What "Kind" of Democracy Are We Talking About? Examining How Newspapers Frame Democratic Norms"" World Social Science Forum 2018 (WSSF)[2018 年 09 月]

2. [その他・国際会議(単独)] ""Solution Journalism: Exploring the Idea of a Normative Partnership with the Citizens"" EuroMedia 2018 : The European Conference on Media, Communication & Film 2018 (Brighton & Hove, United Kingdom)[2018 年 07 月]

平成 30 年度における社会的活動、地域貢献など:

○ **学外教育**

1. [その他]「Simon Fraser 大学とのオンライン国際交流」

平成 30 年度における科学研究費補助金などの受領

○ 競争的資金の獲得

1)［科研費以外］**(代表)**「平成 29 年度 「米国非営利メディア組織がジャーナリズムを通して構築する視聴者との関係性」, 0 万円 ,（公益財団法人放送文化基金助成金）(2018 年 04 月～2019 年 03 月）

平成 30 年度における国際交流活動

1)「Simon Fraser 大学とのオンライン国際交流」

平成 30 年度における大学運営・機構運営業務

○ 全学的委員会の業務

「AIMS 部会」（年度不詳）

「グローバル イングリッシュ プログラム（GEP）部会」（年度不詳）

○ 機構教員としての全学的活動（教学マネジメント）等

1. ［AIMS Program 部会員］（年度不詳）

2. ［Global English Program（GEP）部会員］（年度不詳）

○ その他の校務

1. ［全学教育機構 学術委員］（年度不詳）

④ 機構内各種委員会委員

H30.4.1

<table>
<tr><td>委員会</td><td>予算･施設委員会</td><td>学術委員会</td><td>点検評価委員会</td><td>人事委員会</td></tr>
<tr><td>委員長</td><td>篠嶋副機構長</td><td>西川副機構長</td><td>下村副機構長</td><td>松坂評議員</td></tr>
<tr><td>総合教育企画部門</td><td>下村勝孝</td><td rowspan="4">嶌田敏行
菊池　武
山崎　大
青木香代子</td><td>嶌田敏行</td><td rowspan="4">金　光男
小西康文
八若壽美子</td></tr>
<tr><td>共通教育部門</td><td>上田敦子
大森　真</td><td>小西康文
佐藤伸也</td></tr>
<tr><td>学生支援部門</td><td>西川陽子</td><td>小磯重隆</td></tr>
<tr><td>国際教育部門</td><td>池田庸子</td><td>池田庸子</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td>各部門から推薦された
専任教員又は兼務教員
５人（共通から２人）</td><td>機構長から指名された
専任教員　４人</td><td>各部門から推薦された
専任教員又は兼務教員
５人（共通から２人）</td><td>機構長から指名された
専任教員　３人</td></tr>
</table>

（任期：～H31.3.31）

⑤ 別紙資料リスト

＜共通教育部門＞
資料 2-B-01_【チラシ】日立市・日立地区産業支援センター・茨城大学連携講座 AI・IoT・データサイエンス入門
資料 2-B-02_【チラシ】2018 年度後期　基盤科目（技術と社会）AI・データサイエンス入門
資料 2-B-03_【チラシ】情報リテラシー相談室
資料 2-B-04_【チラシ】英語学修相談室
資料 2-B-05_【チラシ】茨城大学 1day キャンパス
資料 2-B-06_【チラシ】Chatting time Poster
資料 2-B-07_「自ら読む」自律的な学修者を目指して―多読環境の充実による授業外学修促進プロジェクト
資料 2-B-08_BYOD に関する FD 案内

＜学生支援部門＞
資料 2-C-51_2018 バリアフリー活動実績
資料 2-C-52_ピアサポーターの認定制度承認資料
資料 2-C-01_就職ガイダンス実施日程
資料 2-C-02_合同企業説明会
資料 2-C-03_国家・地方行政団体等業務説明会
資料 2-C-04_インターンシップマッチングフェア［学内］
資料 2-C-05_インターンシップマッチングフェア［COC+07］
資料 2-C-06_インターンシップマッチングフェア［COC+12］
資料 2-C-07_インターンのご提案
資料 2-C-08_バスツアー
資料 2-C-09_業界研究会
資料 2-C-10_はばたく茨大生実施概要
資料 2-C-11_2018 前期 学長と学生の懇談会の実施報告書
資料 2-C-12_2018 後期 学長と学生の懇談会実施報告
資料 2-C-13_ゲートキーパー養成講座実施報告書
資料 2-C-14_全学向け参考用学生担任マニュアル 評議会承認資料
資料 2-C-15_基盤ボランティア授業シラバス
資料 2-C-16_山羊飼育活動報告書

＜国際教育部門＞
資料 2-D-01_H26-H30_国際交流データ
資料 2-D-02_茨城大学留学生規程
資料 2-D-03_協定校マップ（2016）
資料 2-D-04_協定校マップ（2019）

資料 2-D-05_第 13 回茨城学生国際会議（2017）
資料 2-D-06_第 14 回茨城学生国際会議（2018）

令和２年２月
全学教育機構 点検評価委員会